◇┳┳┳┳┳┳┳┳┳┳┳┳┳┳┳┳┳┳┳┳┳┳┳┳┳┳┳┳┳┳┳┳┳┳┳┳┳┳┳┳┳┳┳┳┳┳◆

**食科協かわら版　No.452　（2024年度No.27）**　 　2024/7/5

食の行政情報ならびに食中毒情報をお伝えする食科協のメールマガジン

食中毒情報は１回限り　行政情報は原則2回の掲載で削除します

新しいものは*NEW*マークがついております　期限設定のある記事は　期限終了まで掲載

**青字をスクロール　Ctrlキーを押しながらクリック　もしくは右クリックでハイパーリンクを開く**

◇┻┻┻┻┻┻┻┻┻┻┻┻┻┻┻┻┻┻┻┻┻┻┻┻┻┻┻┻┻┻┻┻┻┻┻┻┻┻┻┻┻┻┻┻┻┻◆

**シュロソウ**

|  |  |
| --- | --- |
| **目次** | **ページ** |
| 1. [**食科協関係**](#食科協関係) | **2** |
| 1. [**厚生労働省関係**](#厚生労働省関係) | **2-5** |
| **3**[**食品安全委員会関係**](#食品安全委員会関係) | **5-12** |
| **4**[**農水省関係**](#農水省関係) | **12-18** |
| **5**[**消費者庁関連**](#消費者庁関連)**リコール情報** | **18-22** |
| **6**[**食中毒・感染症**](#食中毒・感染症)  **細菌性食中毒→ウイルス性食中毒→寄生虫→自然毒→感染症→違反品の回収→他**  **各項目発生順で記載　菌種については月により掲載位置が変動しています** | **22-40** |

**１．****[食科協関係](#食科協関係)**

6月28日　 　 かわら版451号を発行・かわら版ニュース＆トピックス436号を発行

6月28日　 　 ニュースレター250号を発行

7月05日　 　 かわら版452号を発行・かわら版ニュース＆トピックス437号を発行

**今年度の正会員の年会費は5,000円になります**

**なるべく7月下旬までにご入金ください**

**なお　請求書・領収書の必要な方はお知らせください**

**その際　領収書の「宛名」をご指示ください**

**２.****[厚生労働省関係](#厚生労働省関係)**　<https://www.mhlw.go.jp/index.html>

**★***Link***傍聴・参加が可能な審議会等の会議一覧　ご案内しきれないときもございます**<https://www.mhlw.go.jp/topics/event/open_doors.html>

**★***Link***副反応疑い報告の状況について（とても詳しい資料です）**

**厚生科学審議会 (予防接種・ワクチン分科会 副反応検討部会)**

<https://www.mhlw.go.jp/stf/shingi/shingi-kousei_284075.html>

**■医薬品成分を含有する製品の発見について　2024/6/25**

<https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage_40945.html>

　　本日、東京都から、別添のとおり記者発表を行った旨の連絡がありましたので、お知らせいたします。

　　別添　<https://www.mhlw.go.jp/content/11126000/001267329.pdf>

　　　今般、都内薬局で販売されていた以下２製品を都で任意提出を受け、成分検査を行ったところ、いずれも医薬品成分である「タダラフィル」が検出されました。

いわゆる健康食品において医薬品成分を含むものは医薬品とみなされ、厚生労働大臣の承認を受けることなく製造販売されたものを販売・授与等することは、「医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律」（以下、「医薬品医療機器等法」という。）で禁止されています。

なお、これまでに当該製品による健康被害発生の報告は受けていません。【製品概要】

製品表示内容

　商品名　Ｒｏｙａｌ Ｈｏｎｅｙ ＶＩＰ

名称　邦文表示なし

原材料　邦文表示なし

製造（輸入）者　邦文表示なし

BATCH NUMBER 等

ＢＡＴＣＨ ＮＵＭＢＥＲ：２４０３０８

ＭＦＧ ＤＡＴＥ：MAR ２０２４

ＥＸＰ ＤＡＴＥ：MAR ２０２７

入手先　薬局

形状　液体

検出成分　１包中「タダラフィル」を９０ｍｇ検出

製品表示内容

　商品名　ＲＯＹＡＬ ＭＩＮＴＳ

名称　邦文表示なし

原材料　邦文表示なし

製造（輸入）者　邦文表示なし

BATCH NUMBER 等

ＢＡＴＣＨ ＮＯ：ＲＭＯ１２４

ＥＸＰ ＤＡＴＥ：０１．０２．２７

入手先　薬局

形状　錠剤

検出成分　１粒中「タダラフィル」を３９ｍｇ検出

**■***NEW***食品中の放射性物質の検査結果について（１３９９報）　2024/7/2**

<https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage_40974.html>

　１　自治体の検査結果

岩手県、宮城県、仙台市、山形県、茨城県、埼玉県、東京都、杉並区、神奈川県、横浜市、新潟県、浜松市、名古屋市、大阪市

　※ 基準値超過　４件

　　No. 843 宮城県　　 ゼンマイ　　　 　　（Cs ： 440 Bq / kg )　丸森町

　　No. 844 宮城県　　 ゼンマイ　　　 　　（Cs ： 280 Bq / kg )　丸森町

　　No. 845 宮城県　　 ゼンマイ　　　　 　（Cs ： 480 Bq / kg )　丸森町

　　No. 847 宮城県　　　ゼンマイ　　　 　　（Cs ： 110 Bq / kg )　丸森町

**■食品中の放射性物質の検査結果について（１３９８報）　2024/6/25**

<https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage_40817.html>

　１　自治体の検査結果

宮城県、仙台市、山形県、栃木県、群馬県、東京都、文京区、神奈川県、横浜市、新潟県、山梨県、京都市、堺市

　※ 基準値超過　11件

　　No. 115 宮城県　　 タケノコ　　　　　 　　（Cs ： 110 Bq / kg )　丸森町

　　No. 116 宮城県　　 タケノコ　　　　　 　　（Cs ： 140 Bq / kg ) 　丸森町

　　No. 119 宮城県　　 タケノコ　　　　　　 　（Cs ： 190 Bq / kg ) 　丸森町

　　No. 121 宮城県　　　タケノコ　　　　　 　　（Cs ： 140 Bq / kg ) 　丸森町

　　No. 122 宮城県　　 タケノコ　　　　　　 　（Cs ： 110 Bq / kg ) 　丸森町

　　No. 123 宮城県　　 タケノコ　　　　　　 　（Cs ： 110 Bq / kg ) 　丸森町

　 No. 136 宮城県　　 タケノコ　　　　　 　　（Cs ： 130 Bq / kg ) 　丸森町

　　No. 140 宮城県　　 タケノコ　　　　　 　　（Cs ： 120 Bq / kg )　 丸森町

　　No. 141 宮城県　　 タケノコ　　　　　　 　（Cs ： 150 Bq / kg ) 　丸森町

　　No. 173 宮城県　　　コシアブラ　　　　 　　（Cs ： 120 Bq / kg )　七ケ宿町

　　No. 189 宮城県　　 タケノコ　　　　　　 　（Cs ： 120 Bq / kg )　 丸森町

**■***NEW***食品安全情報（微生物）No.13 2024（2024.06.26）2024/6/26**

<http://www.nihs.go.jp/dsi/food-info/foodinfonews/2024/foodinfo202413m.pdf>

**目次**

**【世界保健機関（WHO）】**

1. 食品由来疾患サーベイランス強化を目指す国際協力

**【米国疾病予防管理センター（US CDC）】**

1. ペットのアゴヒゲトカゲ（bearded dragon）に関連して複数州にわたり発生している　サルモネラ（*Salmonella* Cotham）感染アウトブレイク（2024 年 6 月 14 日付初発情報）

2. キュウリに関連して複数州にわたり発生しているサルモネラ（*Salmonella* Africana）感染アウトブレイク（2024 年 6 月 12 日付更新情報）

**【欧州疾病予防管理センター（ECDC）】**

1. 2024 年世界手指衛生デー

2. 欧州における抗菌剤耐性サーベイランスの報告書（2022 年のデータの報告）

**【欧州委員会健康・食品安全総局（EC DG-SANTE）】**

1. 食品および飼料に関する早期警告システム（RASFF：Rapid Alert System for Food and Feed）

**【ドイツ連邦リスクアセスメント研究所（BfR）】**

1. トラは「ハザード」であるが必ずしも「リスク」ではない － 「リスク」と「ハザード」

の違い

**【ProMED-mail】**

1. コレラ、下痢、赤痢最新情報（24）（23）（22）

**■***NEW***食品安全情報（化学物質）No.13　2024（2024.06.26）　2024/6/26**

<http://www.nihs.go.jp/dsi/food-info/foodinfonews/2024/foodinfo202413c.pdf>

**【EC】加盟国、食品接触物質におけるビスフェノール A の禁止を支持**

EC 加盟国は、最新の科学的根拠を考慮し、国民の健康を保護し、最高の食品安全基準を確保する観点から、食品接触物質におけるビスフェノール A（BPA）の使用を禁止する欧州委員会の提案を支持した。段階的使用禁止期間終了後、EU 域内ではこれらの製品にBPA を使用できなくなる。今後、欧州議会と欧州理事会による精査期間を経て正式に採択され、2024 年末に発効する。

**＊ポイント：**欧州食品安全機関（EFSA）が 2023 年 4 月に発表した BPA 再評価の結果を受けての措置であり、今年 2 月に規則案についてパブリックコメントを募集していました。EFSA の再評価では、マウスにおける脾臓中の Th17 細胞の割合増加を重要なエンドポイントと判断して耐容一日摂取量（TDI）を大幅に引き下げ、BPA への食事暴露は免疫系に有害な影響を及ぼす懸念があると結論していました。ただし、この EFSA の再評価で選択したエンドポイントや懸念があるとの結論については、欧州医薬品庁（EMA）、ドイツ連邦リスクアセスメント研究所（BfR）、英国毒性委員会（COT）が同意しないとの見解を示しています。

**【FSA】FSA の最新の報告書により、英国の成人集団の約 6%が食物アレルギーであるこ**

**とが判明した**

英国の成人集団における大規模な調査「成人の食物アレルギーのパターンと有病率(PAFA)」の報告書が公表され、有病率が約 6％であることが判明した。原因食品としては、ピーナッツやヘーゼルナッツ、クルミ、アーモンドなどのナッツ類や、リンゴ、モモ、キウイなどの果実類が多かった。また、約半数は成人期後半に発症していた。

**＊ポイント：**成人のみが対象で、臨床的評価結果を専門家が確認している、非常に信頼性の高い貴重な調査結果です。一般的に食物アレルギー患者は子供が多いと考えられていますが今回報告された発症時期や、有病率が「令和 4 年度アレルギー疾患に関する調査報告書」（日本学校保健会、https://www.gakkohoken.jp/books/archives/265）の中の日本の小中高生の有病率 6.3％と同程度であること等、興味深い知見です。また、日本でも近年ナッツ類に対するアレルギー症例が増加しています。

**【HHS】乳児用調製乳供給の安全性を確保するため、食品医薬品局の査察およびリコールのプロセスを改善すべきである**

米国保健福祉省（HHS）の監察総監室(OIG)は、2022 年の乳児用調製乳不足における米国食品医薬品局(FDA)の対応に関する監査報告書を発表し、FDA による乳児用調製乳のリスクの特定、苦情・査察・リコールのプロセスを通じて効果的に対応するための方針と手順が不十分、あるいは欠落していたことによる FDA の対応の遅れによって引き起こされたと指摘した。

**＊ポイント：**前号でご紹介した米国 FDA の組織再編のきっかけの一つとなった監査の報告書です。

**■***NEW***食品安全情報（化学物質）No.13別添　2024（2024.06.26）　2024/6/26**

[http://www.nihs.go.jp/dsi/food-info/foodinfonews/2024/foodinfo202413ca.pdf](http://www.nihs.go.jp/dsi/food-info/foodinfonews/2024/foodinfo202413ca.pdf%20)

**「世界食品安全の日 2024」関連記事**

**※前号 No.12/2024 (2024. 06. 12)までに掲載された記事を除く関連記事をまとめたも**

**のです。**

**＜参考＞**

**＊厚生労働省：コーデックス委員会**

世界食品安全の日(6 月 7 日)

<https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryou/shokuhin/codex/index.html>

（FAO/WHO 公式パンフレットの日本語版を掲載しています）

**＊食品安全委員会：「世界食品安全の日」について**

<https://www.fsc.go.jp/sonota/world_food_safety_day.html>

**3.****[食品安全委員会関係](#食品安全委員会関係)**　<https://www.fsc.go.jp/>

**■***NEW***食品安全委員会（第946回）の開催について　2024/7/4**

標記会合を下記のとおり開催しますので、お知らせいたします。

なお、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、本会合については、傍聴者を入れずに開催いたしますが、本会合の様子については、下記４のとおり、web上で動画配信することといたしました。

議事録につきましては、後日、食品安全委員会Webサイト

（<http://www.fsc.go.jp/iinkai_annai/jisseki.html>） に掲載いたします。大変御迷惑をお掛けいたしますが、ご理解のほど、何卒よろしくお願いいたします。

記

１．開催日時：令和6年7月9日（火）　１４：００〜

２．開催場所：食品安全委員会 大会議室　（港区赤坂５−２−２０ 赤坂パークビル２２階)

３． 議事

　（１）食品安全基本法第２４条の規定に基づく委員会の意見の聴取に関するリスク管理機関からの説明について

　　　・遺伝子組換え食品等　１品目（消費者庁からの説明）

　　　　JPTR004株を利用して生産されたセルラーゼ

（２）その他

４．動画視聴について

：本会合については、その様子を動画配信するとともに、会場での傍聴も受け付けます。動画の視聴又は会場での傍聴を希望される方は、7月8日（月）12時までに、内閣府共通意見等登録システム(<https://form.cao.go.jp/shokuhin/opinion-1404.html>　にて申し込みいただきますようお願いいたします。

　動画の視聴をお申し込みいただいた方には、御登録いただいたメールアドレス宛てに視聴に必要なURLを、7月9日（火）12時までに御連絡いたします。

　　なお、会場での傍聴席は限りがありますので、傍聴を希望される方が多数の場合には原則として先着順とさせていただき、傍聴可能な方には7月8日（月）18時までに御登録いただいたメールアドレス宛てにご連絡いたしますので、受付時間（13：30〜13：50）までに会議室入口で受付をお済ませください。受付時間終了後は入場出来ませんので、ご了承ください。会場で傍聴できない方については、動画視聴に必要なＵＲＬをご送付させていただきます。

　　また、当日の配布資料につきましては、会議開催前までに食品安全委員会のウェブサイト（　<https://www.fsc.go.jp/iinkai_annai/jisseki.html>　）に掲載予定ですので、必要に応じて参照いただきながら、ご覧ください。

※動画視聴時の録画及び録音、画面撮影はご遠慮ください。

<https://www.fsc.go.jp/iinkai_annai/annai/annai804.html>

<http://www.fsc.go.jp/iinkai_annai/annai/> 　**←発表がない場合はこちらからご確認ください**

**会議の結果は下記から確認できます**

**■地方自治体向けのリスクコミュニケーション用素材集　2024/5/31**

<https://www.fsc.go.jp/sozaishyuu/materialforlocalgoverment.html>

**★***Link***食品安全委員会　開催実績リンク　開催日時、配付資料、議事録等**

<https://www.fsc.go.jp/iinkai_annai/jisseki.html>

<https://www.fsc.go.jp/iken-bosyu/pc1_hisiryou_muramidase_030512.html>

**■PFASのリスク評価、その意味は？　姫野誠一郎座長インタビュー**

**令和6（2024）年6月26日掲載**

<https://www.fsc.go.jp/osirase/pfas_interview.html>

**PFAS（有機フッ素化合物）の食品健康影響評価が2024年6月25日、まとまりました。食品安全委員会が、自らの意思で評価を行うと決定し（自ら評価）、ワーキンググループ(以下、WG)を設置したのが23年2月。10人の専門委員と12人の専門参考人が、PFASに関する論文や各国政府機関の報告書など数百の文献に目を通し、計9回の会合で意見を述べ議論しました。姫野誠一郎座長が、全体像を把握しながら議論を促し評価をまとめあげました。**

**科学に基づき多岐にわたる項目を検討した緻密な評価です。それ故に、と言うべきか、一般の人たちにはその意味合いがわかりにくい面があるのもたしか。そこで、姫野座長からわかりやすく語っていただこう、とこのインタビューを企画しました。指標値の意味は？　発がん性は？　血液検査が必要なの？　ずばり、お尋ねします。**

**（聞き手：松永和紀　委員）**

**姫野誠一郎座長**

**1985年〜2003年、北里大学薬学部 公衆衛生学研究室助手，講師，助教授、2003年〜2023年、徳島文理大学薬学部教授. 2020年4月〜、昭和大学薬学部客員教授。保健学博士（東京大学）。必須元素でありながら毒性も強いセレンの研究、カドミウムとマンガンの生体における輸送機構解明に携わったほか、ヒ素化合物の健康影響研究、アジアのヒ素汚染地域のフィールド調査にも取り組む。現在、食品安全委員会汚染物質等専門調査会座長**

**多数の論文を精査し健康影響を判断**

**松永**

**WG立ち上げから1年4カ月。やっとPFASの評価がまとまりました。その内容をおうかがいしたいのですが、あえて先に申し上げると、どうも多くの方々の間に誤解がある。「水道水ですでに運用されている暫定目標値で問題ない、となるように、食品安全委員会は指標値を決めた。だから、欧米に比べてとても緩くなってしまった。けしからん」。そんなふうに言われます。食品安全委員会は、国民の健康保護が最も重要であるという基本的認識の下にリスク評価をしているのですが、残念なことに誤解されています。**

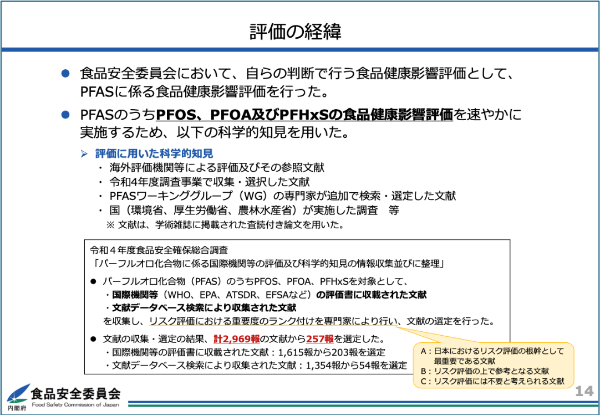
**姫野**

**WGでは、現在の水道水の暫定目標値がこの数字だから、というような議論は一切していないです。われわれは、学術論文と各国政府機関などが出した報告書を読んで、どんな影響がどの程度の摂取量で出る可能性があるのか、食品からの摂取量はどれぐらいか、という議論をひたすら行いました。**

**松永**

**そこでの作業が具体的にどういうものだったのかがわかりにくいのが、誤解の根元にあるような気がしますね。2022年度の調査事業で関連する論文約3000を世界中から収集し、リスク評価に重要と思われる257の文献を選出。肝臓や脂質代謝、発がん性など、多岐にわたる影響についての論文が集まりました。これらの影響項目を科学の世界では「エンドポイント」と呼びますWGでは、エンドポイント別に論文を仕分けし、20人あまりの専門家の先生方にもエンドポイント別にグループになっていただいた。そのうえで、先生方に自分の担当のエンドポイントに関連する論文を一つ一つ読んでいただき、PFAS摂取によりそのエンドポイントの影響が出るのか、グループ内でじっくり検討していただきました。さらに、グループの見解をWG会合で報告し、他グループの先生方も意見し、ということを繰り返し、WGグループ全体の意見としてまとめてゆく、という作業が行われました。**

**図1　評価の経緯**

****

**姫野**

**学術論文というのは、エンドポイントの評価に使えるかどうかという視点で吟味すると、質がさまざまなんです。動物試験なら、動物の数、飼育方法、PFASの与え方など細かく見て、ヒトが口から摂取した場合の判断に使えるかどうか検討しないといけない。ヒトの調査なら、どのような対象者なのかとか、関連の有無をどのような手法で判断したかも大事です。たとえば、PFAS摂取と健康状態を同時に調べた「横断研究」なのか、PFAS摂取の状況を調べて、その後の健康影響を長い年数追いかけた「コホート研究」なのか。横断研究はその瞬間の状況を把握するものなので、統計学的に関連があると言っても、PFASが原因でこういう影響が出ているのかどうか、という因果関係までは判断できないのです。また、研究で示された影響が、ヒトの長い人生における正常域の範疇にとどまるのか、あるいは、「有害影響」というレベルの大きな変化なのか、ということも考えなければなりません。**

**米国やEU等の政府機関の見解、考え方なども一様ではないので、取り入れるかどうか慎重に検討しました。このWGを始めた時点で、各国政府機関が決めていたPFASの安全性に関する指標値は、低いものから高いものまで、PFOSで10万倍、PFOAで1万倍もの開きがありました。なので、われわれはどのエビデンスが確かなものなのかをまずしっかり吟味することにしました米国環境保護庁(EPA)が示した指標値がもっとも低く厳しいのですが、それまでに公表されていた各国の普通の人々の摂取量データと比較しても、かなり低い数字。つまり、世界の多くの人たちがおそらく、米国の指標値を守れない、という状況でした。もし、そのような低レベルのPFASがさまざまな健康影響を起こすとしたら大変なことなので、われわれも極めて慎重に論文を調べたわけです。**

**データが少なく矛盾も多く**

**松永**

**化学物質には「用量反応関係」があるとされています。簡単に言うと、摂取量が増えると影響が大きくなる、というものです。農薬や添加物は、ヒトが摂取する試験はできないので、動物試験で用量反応関係を確認し、これを下回れば影響を検出できないという「無毒性量」（NOAEL）を確定し、そこからヒトの「許容一日摂取量」(ADI)を決定します。PFASの場合にはヒトの調査があり動物試験も行われているものの、データが少なく矛盾していたりして、判断が難しかったようですね。**

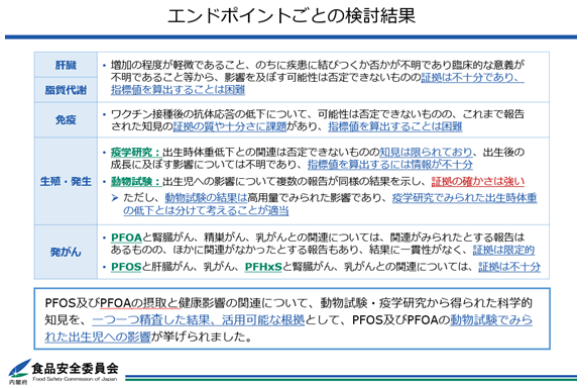
**姫野**

**論文を突き合わせて検討すると、研究によって結果が一致しない、用量反応関係を見出せないエンドポイントが多数ありました。摂取量が少ない人たちで影響が見出された、という報告がある一方、PFASを製造していた工場の労働者、つまり大量を体に取り込んでいるに違いない「高ばく露者」でその影響が見られなかったりする場合もあるのです。そういう生物現象は起こりうるのですが、そうするとどの値から安全、あるいは危険なのかを判断するのが非常に難しくなります。それに動物試験とヒトの調査の結果が正反対、というものもありました。たとえば、コレステロール値がマウスやサルでは下がるのに、ヒトの調査では上がっていたりする。判断が非常に難しく、WGの専門家の先生方も苦労されたと思います。**

**松永**

**そうした緻密な検討議論の結果が評価書となりました。検討した各エンドポイントのうち、神経や甲状腺機能等については明確な影響ありとは言えない、などと判断され、影響を否定できなかったエンドポイントが表１にまとめられています。このエンドポイントごとの緻密な評価を経て23年12月に開かれた第6回会合でやっと、姫野座長が「健康影響評価に関する指標値を出せるかどうか、次回議論しましょう」と切り出しています。**

**表１　エンドポイントごとの検討結果**

****

**姫野**

**「証拠が不十分」とあると「結局、影響はないと判断したということか？」と聞かれたりするのですが、そうではありません。多くのエンドポイントは、PFASとの関連は否定できないものの、指標値を決められるほど試験研究が充実し結果が一致している、というわけではなかった。指標値を決めるために十分な証拠があるかどうかというと、不十分と判断せざるを得ませんでした。しかし、生殖・発生の動物試験、具体的には動物試験で得られた「出生児への影響」だけは「証拠の確かさが強い」と判断され、ここから指標値を算出し、PFASのうち、PFOSとPFOAについて耐容一日摂取量（TDI）と決定しました。**

**表２　決められた耐容一日摂取量（TDI）**

****

**発がん性についても真摯な議論**

**松永**

**パブリックコメントの中では、TDIが高すぎる、という意見が多かったのですが、WGは科学に誠実に、この数値に決めた、ということですね。もう一つ、多くの方が、評価における発がん性の判断が引っかかったようです。パブリックコメントでも、「国際がん研究機関（IARC）が発がん性がある、と判断したのに、証拠は限定的とか不十分とか、おかしいではないか」という趣旨の意見が多数きました。**

**姫野**

**ヒトでの発がん性に関しては、食品安全委員会とIARCでほぼ同様に、証拠についてPFOAは限定的で、PFOSは不十分と判断しています。一方で、動物試験の解釈や発がん性のメカニズムの検討において、WGは2023年のIARCの判断には同意しかねる、ということになりました。**

**松永**

**WGの第6回会合で、IARCの評価について議論が行われましたね。IARCの分類に賛同しないという趣旨の意見が複数の方から出ています。WGの先生方もそれぞれ、国際的に知られる専門家ですし、IARCでほかの物質の評価に携わっている人もいる。日本の専門家たちが真摯に検討し、プライドを持ってきっちり見解を示した、と私は受け止めています。**

**姫野**

**そもそも、IARCとは評価の性質も違います。IARCの判断については評価書やパブリックコメント回答などでも詳しく説明していますので、そちらも読んでもらいたいです。**

**汚染地域のデータを用いなかった理由は…**

**松永**

**リスクの大きさは、その物質の危害の性質と、摂取量の両方から決まりますので、摂取量も非常に重要です。WGは、平均的な日本人のPFOS、PFOA摂取量はTDIより低い状況にある、と推定しています。それに、PFOS、PFOAは禁止されてから年数が経っていて、以前より摂取量が低下してきているようです。一方で、環境中に残り水や食品を汚染しているのも事実なので、高濃度汚染地域があることが次第に明らかになってきました。パブリックコメントでも、住民の健康影響を心配する意見が寄せられました。**

**姫野**

**私自身も、WGが始まった時はこれほど、思わぬ汚染源や汚染地域が明らかになってくる、とは思っていませんでした。調査が必要です。**

**松永**

**一部地域で今、続々と血液検査が行われています。こうしたデータが評価に取り入れられていない、という批判があります。**

**姫野**

**評価は、第三者の査読を受け信頼性が担保された学術論文や、公的な報告書のデータを基に行いました。論文になっていない血液検査の結果などは使えないので、早く論文にしていただきたいです。ただ、血中濃度のデータだけでは、評価に用いることができない、ということも理解してほしいと思います。**

**松永**

**どういうことですか？　全国で住民の血液検査をして対策を、という意見も強いようですが。**

**血中濃度検査と共に行うべき調査がある**

**姫野**

**血中濃度検査では、その時にPFASが血液中にどれくらいあるか、ということしかわかりません。ヒトがPFASを食事や水などから摂取した後、さまざまな臓器への分布、代謝や排出などを経て、血液中にもPFASが一定量ある、という状態です。つまり、血中濃度は摂取した量や時期、代謝の個人差などの様々な要素を反映したものであり、健康影響そのものではありません。PFASの健康影響を検討するには、PFASの摂取量と、血中濃度、健康調査、という３点セットが必要です。われわれは血中濃度を軽視しているわけではなく、評価書でも海外の論文に記載された血中濃度を記載しています。ところが残念なことに、国内では健康影響と血中濃度の両方を調べた研究は、北海道スタディを除いてほとんどないのです。今回の評価書では北海道スタディの結果はすべて詳細に紹介しました。**

**松永**

**住民には食品や飲み水のPFAS含有量はわからないので、血液検査で手っ取り早く調べてもらいたい、というのは当然の気持ちなのですが。**

**姫野**

**長期のフォローアップも重要です。とくにがんは、今日摂取して明日発症する、というものではなく、10年後、20年後に影響が見えてくるものだからです。しっかりとした調査計画をたて目的や対象者、実施方法、長期的なフォローアップ体制まで検討したうえで、血中濃度を測ることが、適切な対策につながると考えています。**

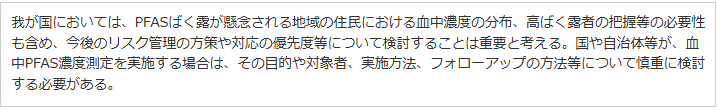
**松永**

**日本の食品安全は「リスクアナリシス」という仕組みで動いています。食品安全委員会が「リスク評価」を担い、厚生労働省や農林水産省、環境省などの「リスク管理」機関が、現状を調べたり基準値を設けたりするなどの対策を講じます。食品安全委員会自体は調査を主体となって担う部門は持っていませんので、しっかりしたデータ・情報がほしい、というのは、姫野座長やWGの先生方だけでなく、食品安全委員会としての願いでもあります。**

**姫野**

**はい、国内データは著しく不足しています。評価書P242で、リスク管理の要望としてつぎのような文言を入れています。**

**表３　評価書p242 　今後の課題（リスク管理）**

****

**モニタリングが必要だ**

**姫野**

**個人的に長年、「ヒトを対象としたバイオモニタリングがとても重要なのに、日本ではちゃんと行われていない。なんとかすべきだ」と考えてきました。水俣病が起こった初期に不知火海全域の住民の健康調査をきちんとやっておけば、それから60年も70年もたっていまだに裁判が続くようなことはなかっただろうと思います。私は、2011年から23年まで日本学術会議連携会員でしたが、日本学術会議としてヒューマンバイオモニタリングに関するシンポジウム**<https://www.scj.go.jp/ja/event/2020/282-s-0116.html>**を企画したほどです。ヒューマンバイオモニタリングというのは、集団を対象に定期的に血液や尿などの検査を行い、体内の化学物質量やその変化を把握してゆくものです。米国には、NHANESと呼ばれるプログラムがあります。2年に１回、約5000人を対象に300あまりの化学物質が測定され、PFASも入っています。これにより、その時々の摂取の状況だけでなく、環境対策を講じた後の減衰、つまり行政の対策の効果もわかります。ほとんどの先進国が実施しており、日本でもこうした大規模な調査とデータの公開が必要です。**

**松永**

**世界でも国により、PFASの健康影響は解釈が分かれている。そのうえ、日本のデータがとにかく不足している。姫野座長は、記者ブリーフィング等で「100点満点の評価ではない」という発言をされましたが、データの不十分さ故に不確実性が高く、強靭な評価には至らなかった、ということでしょうか。**

**姫野**

**ヒトの健康影響の評価は、がんの検討など長い時間がかかります。今後の研究がとても大事です。新しい知見が集積したら、当然新たな評価が求められると思います。摂取のレベルが高い地域を含めた調査研究には、法的なバックアップと予算のバックアップが必要、と個人的に考えています。法的なバックアップというのは基準値設定など。暫定目標値では法的拘束力が弱いと思います。基準値が設定されると「基準を超過していないか、全国でしっかり調べる」という責務が国に課されます。また、調査研究には多額の費用がかかるので、国の予算措置も必要です。国家百年の大計を期待したいです。**

**食品安全委員会の独立性が重要だった**

**松永**

**姫野座長は、ほぼすべての論文に目を通し、専門家の意見をまとめられました。かなりの時間を費やされたはず、ですね。**

**姫野**

**私は定年退職後だったのでまだよかったのですが、現役の委員の先生たちはとても大変だったと思います。**

**日本の行政の縦割りがよく批判されますが、今回の作業の感想の一つとして、縦割りにもよいところもあるな、と思いました。つまり、食品安全委員会は、ほかのリスク管理を担う省庁から完全に独立していて、WGはひたすら科学に誠実にリスク評価することができました。私は、PFASの前に、汚染物質等専門調査会座長としてカドミウムの再評価も行ったのですが、この2つの評価活動を通じて私が自分に課していたのは、社会的関心が高いか低いかにかかわらず、科学的知見の評価をきちんとかつ冷静にやるべき、ということで、その努力はしてきたと思っています。**

**松永**

**ありがとうございました。その時点で限られたデータを基に最善の努力で評価を行い、規制や調査の前進を促す。個人的には、レギュラトリーサイエンスの一つの形を、今回の評価を通じて見せていただいたように感じています。評価書の内容を多くの方に理解してもらい、今後の適切な調査につなげるためにも、リスクコミュニケーションを続けなければいけないと思っています**

**評価書等の資料**

**・PFASの食品健康影響評価書**

<file:///C:/Users/shokkakyo/Downloads/kya20240625001_201%20(1).pdf>

**・パブリックコメントの募集結果**

<file:///C:/Users/shokkakyo/Downloads/kya20240625001_202.pdf>

**・パブリックコメント一覧**

<file:///C:/Users/shokkakyo/Downloads/kya20240625001_203.pdf>

**・「有機フッ素化合物（PFAS）」評価書に関するQ&A（2024年6月25日更新）**

<https://www.fsc.go.jp/visual/youtube.html>

**・食品安全・オンラインセミナー「有機フッ素化合物（PFAS）の食品健康影響評価書（案）」令和６（2024）年2月22日14時開催**

<https://www.fsc.go.jp/koukan/annai20240222.html>

**・開催結果**

<https://www.fsc.go.jp/fsciis/meetingMaterial/show/kai20240222ik1>

**・食品安全オンラインセミナー「有機フッ素化合物（PFAS）の食品健康影響評価書（案）」の動画**

<https://www.fsc.go.jp/visual/youtube.html>

**・PFOA（パーフルオロオクタン酸）及びPFOS（パーフルオロオクタンスルホン酸）に対する国際がん研究機関（IARC）の評価結果に関するQ&A（2023年12月5日）**

<https://www.fsc.go.jp/foodsafetyinfo_map/pfoa_and_pfos_faq.html>

**■「有機フッ素化合物（PFAS）」の評価に関する情報　2024/6/25**

<https://www.fsc.go.jp/osirase/pfas_health_assessment.html>

**■***NEW***食品安全関係情報更新（令和6年5月18日から令和6年5月31日）2024/7/2**

<https://www.fsc.go.jp/fsciis/foodSafetyMaterial/search?year=&from=struct&from_year=2024&from_month=5&from_day=18&to=struct&to_year=2024&to_month=5&to_day=31&max=100>

**４．****[農水省関係](C:\\Users\\chichi2\\AppData\\Roaming\\Microsoft\\Word\\農水省関係)**<https://www.maff.go.jp/>

**★***Link***ウクライナ情勢に関する農林水産業・食品関連産業事業者向け相談窓口**

<https://www.maff.go.jp/j/zyukyu/sodan.html>

**★***Link***水産物の放射性物質調査の結果について**

<https://www.jfa.maff.go.jp/j/housyanou/kekka.html>

**■***NEW***令和6年能登半島地震で発生した山地災害等の状況を把握・分析するための航空レーザ測量データ（速報成果）の提供について　2024/7/3**

<https://www.rinya.maff.go.jp/j/press/keikaku/240703.html>

　　林野庁と国土地理院では、令和6年能登半島地震で発生した山地災害等の状況を詳細に把握・分析し、被災地域の今後の復旧整備等に役立てるため、航空レーザ測量の実施と計測データの解析を進めています。

このたび、地震後の地形状況を把握する航空レーザ測量による点群データ等の速報成果や崩壊箇所・亀裂の位置を把握する微地形表現図等の速報成果について、石川県等の関係機関への提供を開始しましたのでお知らせします。

1.取組概要について

令和6年能登半島地震では、奥能登地域を中心に崩壊や地すべりなどの地形変化が広範囲で発生しました。山地の被災状況については、ヘリコプター調査や空中写真の判読などにより確認が進められてきましたが、林野庁と国土地理院では、森林の内部など目視での確認が困難な箇所についても亀裂や地形変化などの発生状況を把握することを目的に、航空機に搭載したレーザ測距装置を使用して表層・地表を3次元で計測する航空レーザ測量を実施し、そのデータ解析を進めています。

このたび、地震後の地形状況の把握や災害復旧事業等に活用できる航空レーザ測量データと崩壊や亀裂の位置、地形の特徴を明らかにする微地形表現図等の速報成果の整備が完了し、石川県等の関係機関に提供しました。

今後、林野庁では、当該速報成果に加え、地形変化量等の把握・分析を行い、治山対策等による山地の復旧整備の計画策定等に活用していくとともに、国土地理院では、災害復旧事業等の公共測量に供することができる基本測量成果の整備を進め、被災地域の早期復旧・復興に向けた支援を進めてまいります。

2.地方公共団体等へのデータ提供について

本速報成果については、山地災害以外への対応も含め、災害対応に取り組む地方公共団体及び国の行政機関に対し提供することが可能です。

本速報成果の提供をご希望する場合は、下記お問合せ先までご相談ください。

添付資料

提供を開始した速報成果のイメージ(PDF : 1,089KB)

<https://www.rinya.maff.go.jp/j/press/keikaku/attach/pdf/240703-1.pdf>

**お問合せ先**

**(全般に関すること、地形解析の速報成果に関すること)**

**林野庁森林整備部計画課　担当者：室木、平間**

**代表：03-3502-8111(内線6155)　ダイヤルイン：03-6744-2339**

**(航空レーザ測量データの速報成果に関すること)**

**国土地理院基本図情報部管理課　担当者：小林、大塚、小室**

**代表：029-864-1111(内線5133)　ダイヤルイン：029-864-4856**

**■***NEW***リトアニアからの家きん肉等の輸入一時停止措置の解除について　2024/7/1**

<https://www.maff.go.jp/j/press/syouan/douei/240701.html>

　　農林水産省は、今般、リトアニアのマリヤンポレ州における鳥インフルエンザの清浄性を確認したことから、本日、同州からの家きん肉等の輸入一時停止措置を解除しました。

1.経緯

リトアニアのマリヤンポレ州の家きん飼養施設において、高病原性鳥インフルエンザの発生が確認されたことから、令和5年12月以降、同州からの家きん肉等について輸入を一時停止していました。

2.対応

今般、リトアニア家畜衛生当局から我が国に提供された鳥インフルエンザの防疫措置等の情報により、同州の家きんにおける同病の清浄性を確認しました。このため、本日付けで当該輸入一時停止措置（※）を解除しました。

（参考）生きた家きんについては、2国間で輸入条件が設定されていないため、従前より輸入できません。

**これまでの生きた家きん、家きん肉等の輸入停止措置の状況等については、以下のページより確認いただけます。**

**動物検疫所：**<https://www.maff.go.jp/aqs/topix/im/hpai.html>

**■***NEW***「食生活・ライフスタイル調査～令和5年度～」の結果公表について　2024/6/28**

<https://www.maff.go.jp/j/press/kanbo/anpo/240628.html>

　　農林水産省では、食と農のつながりの深化に着目した国民運動「食から日本を考える。ニッポンフードシフト」を展開しています。

本運動の一環として、消費者の日常の消費行動や、食や農に対する意識、普段の食事の実態等を把握するため、「食生活・ライフスタイル調査～令和5年度～」を実施し、結果を取りまとめましたので公表します。

1.調査の目的及び背景

農林水産省では、食と環境を支える農業・農村への国民の理解を醸成するため、食と農のつながりの深化に着目した国民運動「食から日本を考える。ニッポンフードシフト」を展開しています。

本運動の一環として、消費者の日常の消費行動や、食や農に対する意識、普段の食事の実態等を把握することを目的に毎年「食生活・ライフスタイル調査」を実施しています。

2.調査結果（概要）

(1)定量調査

食に関して重視していることについては、「同じような商品であれば出来るだけ価格が安いこと」、次に「できるだけ日本産の商品であること」と回答した割合が高い結果となりました。

また、現在の日本の農業の課題としては、「食品ロスの削減」、「食料自給率の低下」、「農業従事者の減少・高齢化」についての認知度が高い結果となりました。

(2)写真調査

(ア)写真調査（全体）

対象者の7日間の食事における食料自給率（カロリーベース）の平均値は、夏と冬の調査ともに40％と、令和4年度調査の食料自給率（カロリーベース）の平均値37.5％をやや上回っています。

また、3食における主食の割合については、夏・冬ともに「米食」が4割超（夏：46％冬：42％）で1位、「パン食」（夏：16％、冬：15％）が2位、次いで「麺類」（夏：13％、冬：13％）という結果になりました。

(イ)写真調査（Z世代）

令和5年度に初めて実施したZ世代への写真調査では、対象者の4日間の食事における食料自給率（カロリーベース）の平均値は、37%となっています。

また、3食における主食の割合については、「米食」が33％で1位、「麺類」が14％で2位、次いで「パン食」が11％、「食事なし」が31%という結果となっています。

3.調査手法

(1)定量調査

全国の4,000名を対象として、消費者がどのように情報を入手し、どのような意識で食品等を購入しているか、また、食や農に対してどのような意識を持っているか等を調査しました。

(2)写真調査

(ア)写真調査（全体）

全国の30名を対象として、7日間の食事の写真を撮影し、食事時間やメニュー、食料自給率の予測値等について回答する調査を夏と冬の2回にわたって実施しました。

(イ)写真調査（Z世代）

全国の20名のZ世代（15歳から24歳）を対象として、4日間の食事の写真を撮影し、食事時間やメニュー、食料自給率の予測値等について回答する調査を冬に実施しました。

4.関連サイト

ニッポンフードシフト公式WEBサイト

食から日本を考える。NIPPON FOOD SHIFT｜ニッポンフードシフト

<https://nippon-food-shift.maff.go.jp/>

農林水産省公式WEBサイト

食生活・ライフスタイル調査

<https://www.maff.go.jp/j/zyukyu/survey/lifestyle.html>

5.添付資料

食生活・ライフスタイル調査～令和5年度～

<https://www.maff.go.jp/j/press/kanbo/anpo/attach/pdf/240628-1.pdf>

分割1(定量調査）

<https://www.maff.go.jp/j/press/kanbo/anpo/attach/pdf/240628-2.pdf>

分割2(写真調査・全体・夏）

<https://www.maff.go.jp/j/press/kanbo/anpo/attach/pdf/240628-3.pdf>

分割3(写真調査・全体・冬)

<https://www.maff.go.jp/j/press/kanbo/anpo/attach/pdf/240628-4.pdf>

分割4(写真調査・Z世代)

<https://www.maff.go.jp/j/press/kanbo/anpo/attach/pdf/240628-5.pdf>

お問合せ先

大臣官房政策課食料安全保障室　担当者：宮田、足立

代表：03-3502-8111（内線3805）ダイヤルイン：03-6744-2376

**■令和5年度遺伝子組換え植物実態調査の結果について　2024/6/26**

<https://www.maff.go.jp/j/press/syouan/nouan/240626.html>

　　農林水産省は、平成18年度以降、セイヨウナタネやダイズ等の輸入港の周辺地域において、遺伝子組換えセイヨウナタネ及び遺伝子組換えダイズの生育や、その近縁種との交雑の有無を調査しています。

令和5年度の調査では、これまでの調査結果と同様に、主に運搬時にこぼれ落ちた種子に由来すると考えられる遺伝子組換えセイヨウナタネが生育していましたが、組み換えられた遺伝子が交雑可能な近縁種に拡散したり、生育範囲が拡大したりする状況は確認されませんでした。

このため、遺伝子組換えセイヨウナタネ及び遺伝子組換えダイズにより、生物多様性影響が生ずるおそれはないと考えられます。

1.調査の目的

農林水産省は、遺伝子組換え生物等の使用等の規制による生物の多様性の確保に関する法律（平成15年法律第97号）に基づき承認した遺伝子組換えセイヨウナタネや遺伝子組換えダイズにより、生物多様性影響が生ずるおそれの有無を検証するため、セイヨウナタネとその近縁種（カラシナ及び在来ナタネ。以下、セイヨウナタネを含めて「ナタネ類」といいます。）については平成18年度から、ダイズとその近縁種であるツルマメについては平成21年度から、それぞれ遺伝子組換え体の生育や近縁種との交雑の有無について調査をしています。

2.令和5年度の調査方法及び調査結果（概要）

（1）調査方法

　　・これまでの実態調査で遺伝子組換え体が多く生育していた港を調査することとし、ナタネ類について7港、ダイズ及びツルマメについては1港において、それぞれ陸揚げ地点から5kmの範囲で、遺伝子組換え体の生育を調査するため、葉を採取・分析し、遺伝子組換え体か否かを判定しました。

・さらに、遺伝子組換え体が交雑と世代交代を繰り返すことにより、組み換えられた遺伝子が交雑可能な近縁種に拡散している可能性を検証するため、遺伝子組換え体が生育していた場所及びその周囲において、ナタネ類等の種子を採取・分析し、遺伝子組換え体の交雑率を推定しました。

（2）調査結果

以下の結果のとおり、令和4年度までの調査結果と同様に、組み換えられた遺伝子が交雑可能な近縁種に拡散したり、組換え体の生育範囲が拡大したりする状況は確認されませんでした

　・遺伝子組換えセイヨウナタネは、7港において計65群落（76個体）生育していましたが、生育範囲が経年的に拡大している状況は確認されませんでした。

・遺伝子組換えセイヨウナタネと、その周囲に生息するセイヨウナタネとの交雑率は、遺伝子組換えでないセイヨウナタネ同士の文献等に示された交雑率の範囲内でした。

・遺伝子組換えセイヨウナタネの生育地点は、主に陸揚げ地点に近接する幹線道路沿いの植栽帯等にとどまっておりました。

・遺伝子組換えダイズは生育しておらず、生育範囲が経年的に拡大している状況は確認されませんでした。

3．今後の対応

今回の令和5年度の調査結果においても、令和4年度までの調査結果と同様、組み換えられた遺伝子が交雑可能な近縁種に拡散したり、組換え体の生育範囲を拡大したりする状況は確認されませんでした。そのため、遺伝子組換えセイヨウナタネ及び遺伝子組換えダイズにより、生物多様性影響が生ずるおそれはないと考えられます。

農林水産省は、遺伝子組換えセイヨウナタネ及び遺伝子組換えダイズにより、生物多様性影響が生ずるおそれの有無を検証するため、令和6年度以降も、本調査を継続して実施することとしており、遺伝子組換え農作物等により生ずる我が国の生物多様性への影響に関する科学的知見の一層の充実を図ってまいります。

参考

これまでの遺伝子組換え植物実態調査の結果については、以下に掲載しています。

<https://www.maff.go.jp/j/syouan/nouan/carta/torikumi/index.html#2>

＜添付資料＞

遺伝子組換え植物実態調査結果（令和5年度実施分）

<https://www.maff.go.jp/j/press/syouan/nouan/attach/pdf/240626-1.pdf>

お問合せ先　消費・安全局農産安全管理課　担当者：清水、福島

代表：03-3502-8111（内線4510）ダイヤルイン：03-6744-2102

**■水産加工業者における東日本大震災からの復興状況アンケート(第11回)の結果について　2024/6/25**

<https://www.jfa.maff.go.jp/j/press/kakou/240625.html>

　　水産庁は、水産加工関係団体の協力を得て、青森県、岩手県、宮城県、福島県、茨城県及び千葉県の水産加工業者における東日本大震災からの復興状況に関するアンケートを実施し、その結果を取りまとめましたのでお知らせします。アンケートでは、依然として生産能力の回復に比べ　、売上の回復が遅れていることなどが明らかになりました。

1.調査時期・方法

水産加工業者における東日本大震災からの復興状況を把握し、今後の施策につなげるため、令和6年1月10日から令和6年2月29日までの間、青森県、岩手県、宮城県、福島県、茨城県及び千葉県の全国水産加工業協同組合連合会・全国蒲鉾水産加工業協同組合連合会・全国珍味商工業協同組合連合会傘下の組合等所属の859企業を対象にアンケートを実施しました。

2.調査結果のポイント

（1）生産能力や売上の回復状況

生産能力が8割以上回復した業者は6県全体で71％となっているものの、売上が8割以上回復した業者は6県全体で50％にとどまっており、依然として生産能力の回復に比べ売上の回復が遅れています。

県別に見ると、生産能力の回復は福島県が未だ低い状況です。

（2）売上が戻った理由と戻らない理由

震災前と同水準まで売上が戻った理由として、6県全体で、「新商品開発・新ブランドの開発」が57％、「新規販売チャネルでの販売」が54％、「既存主力商品に特化」が39％となっています。また、震災前と同水準まで売上が戻っていない理由として、6県全体で、「原材料の不足」が66％、「人材の不足」が43％、「販路の不足・喪失」が41％となっています

こうした中で、「水産業復興販売加速化支援事業」を活用した者（回答者の64％）の91％が、販路の回復に繋がったと回答しました。

（3）今後売上を伸ばしていくために重要と考える取組について

事業者が、今後売上を伸ばしていくために重要と考える取組は、「原材料の確保」が72％「人材の確保」が67％、「販路の回復・開拓（国内）」が61％でした。

3.参考

令和5年6月2日付けプレスリリース「水産加工業者における東日本大震災からの復興状況アンケート（第10回）の結果について」

<https://www.jfa.maff.go.jp/j/press/kakou/230602.html>

<添付資料>

水産加工業者における東日本大震災からの復興状況アンケート(第11回)結果

<https://www.jfa.maff.go.jp/j/press/kakou/attach/pdf/240625-1.pdf>

お問合せ先

漁政部加工流通課　担当者：荒、横尾、河野

代表：03-3502-8111（内線6616）ダイヤルイン：03-6744-2350

**■高病原性鳥インフルエンザの清浄化宣言について　2024/6/24**

<https://www.maff.go.jp/j/press/syouan/douei/240624.html>

　　令和5年シーズンの高病原性鳥インフルエンザの発生が終息したことを受けて、農林水産省が国際獣疫事務局（WOAH）に提出した清浄化宣言が、令和6年6月2日（日曜日）を清浄化の開始日として、WOAHのウェブサイトに掲載されましたのでお知らせします。

1.経緯

令和5年11月から令和6年4月まで国内の家きん飼養農場で発生した高病原性鳥インフルエンザ（H5N1亜型、H5N6亜型）については、令和6年5月4日までに全ての防疫措置が完了しました。その後、新たな発生が確認されなかったことから、WOAHの規定に基づき、高病原性鳥インフルエンザの清浄化宣言を提出していました。今般、当該清浄化宣言が、令和6年6月2日を清浄化の開始日として、WOAHのウェブサイトに掲載されました。

<https://www.woah.org/en/what-we-offer/self-declared-disease-status/>

2.防疫対策強化のお願い

高病原性鳥インフルエンザは、令和5年シーズンにおいても北米や欧州のほか、南米や南極大陸等でも発生するなど、世界的にまん延しています。家きん飼養農場を含む畜産関係者の皆様方におかれましては、引き続き、飼養衛生管理の徹底や早期の発見・通報により、発生予防及びまん延防止に万全を期していただきますようお願いいたします。

3.その他

既にお知らせのとおり、清浄化に伴い、家きん由来製品の主な輸出国・地域への全国からの輸出が可能となっています。

令和6年6月12日付けプレスリリース「香港向け家きん由来製品の輸出再開について(千葉県)」

<https://www.maff.go.jp/j/press/syouan/douei/240612.html>

（参考）

「鳥インフルエンザに関する情報」についての詳細はこちらのページを御覧ください。

<https://www.maff.go.jp/j/syouan/douei/tori/index.html>

「国際獣疫事務局（WOAH）」についての詳細はこちらのページを御覧ください。

<https://www.maff.go.jp/j/syouan/kijun/wto-sps/oie.html>

**５.****[消費者庁関連](#消費者庁関連)**<https://www.caa.go.jp/>

**「消費者庁」になりすましたTwitter、Facebookアカウントにご注意ください。**

**★***Link***紅麹関連の情報**

<https://www.caa.go.jp/notice/entry/036992>

**■***NEW***機能性表示食品に対する景品表示法に基づく措置命令を踏まえた食品表示法における対応について(情報提供)　2024/6/28**

<https://www.caa.go.jp/policies/policy/food_labeling/foods_with_function_claims>

**■食品表示基準の一部改正案に関する意見募集について　2024/6/27**

<https://www.caa.go.jp/notice/entry/038496/>

　　消費者庁では、食品表示基準の一部改正案を作成いたしました(本案の詳細は別添資料を御参照ください。)。つきましては、下記のとおり、広く国民の皆様の御意見を募集いたします。お寄せいただいた御意見につきましては、内容を検討の上、本案作成の参考とさせていただきます

詳細

1.意見募集の対象

食品表示法に規定する食品表示基準の一部改正案

<https://public-comment.e-gov.go.jp/servlet/Public?CLASSNAME=PCMMSTDETAIL&id=235080074&Mode=0>

2.一部改正案の概要

機能性表示食品制度は、安全性及び機能性に関する一定の科学的根拠に基づき、事業者の責任において機能性関与成分によって健康の維持及び増進に資する特定の保健の目的が期待できる旨の表示ができる制度ですが、今般の小林製薬株式会社の紅麹関連製品に係る事案を踏まえ制度の信頼性を高める観点から、食品表示基準の一部を改正いたします。

3.意見募集期間　令和6年6月27日(木)から同年7月26日(金)まで(郵送の場合は同日必着)

4.意見の提出方法

以下の事項を記載し、次に掲げるいずれかの方法により提出してください。

なお、電話での受付はできませんので御了承ください。

【1】 氏名(法人その他の団体にあっては名称/部署名等)

【2】 職業(法人その他の団体にあっては業種)[任意]

【3】 住所

【4】 電話番号

【5】 電子メールアドレス(お持ちの場合)

【6】 御意見及びその理由

\* 御意見が600字を超える場合、その内容の要旨を添付してくださいますようお願いいたします。

\* 郵送で御提出の場合、別途様式を用意しておりますが、【1】～【6】の項目が記載されていれば、他の様式を用いての御提出も可能です。

(1) インターネットの場合

電子政府の総合窓口(e-Gov)の意見提出フォームから提出してください。

リンク:<https://search.e-gov.go.jp/servlet/Public>

(2) 郵送の場合

〒100-8958

東京都千代田区霞が関3-1-1 中央合同庁舎第4号館6階

消費者庁食品表示課 意見募集担当宛て

\* 封筒表面に「食品表示基準の一部を改正する内閣府令(案)について」と朱書きしてください。

5.注意事項

お寄せいただいた御意見に対する個別の回答はしかねますので、その旨御了承願います。

御意見については、提出者の氏名や住所等、個人を特定できる情報を除き、そのまま公表させていただく場合もありますので、その旨御了承願います。

御記入いただいた氏名、住所、電話番号及び電子メールアドレスは、御提出いただいた御意見の内容に不明な点があった場合等の連絡のために利用します。

公表資料

食品表示法に規定する食品表示基準の一部改正案に関する意見募集について

<https://www.caa.go.jp/notice/assets/food_labeling_cms206_240627_02.pdf>

関連リンク

意見募集・意見交換会

<https://www.caa.go.jp/policies/policy/food_labeling/other/>

問合せ先

消費者庁食品表示課　宗、森川

電話番号 03-3507-9138(直通)

問合せ先

消費者庁食品表示課保健表示室　横田、田中

電話番号 03-3507-9220(直通)

**■食品表示法に基づく食品表示基準の一部改正に係る消費者委員会への諮問について　2024/6/27**

<https://www.caa.go.jp/notice/entry/038499/>

　　消費者庁では、本日、食品表示法(平成25年法律第70号)第4条第6項の規定により準用することとされた同条第2項の規定に基づき、食品表示基準(平成27年内閣府令第10号)の一部改正に係る消費者委員会への諮問を行いましたので公表します。

詳細

1.諮問内容

食品表示基準の一部改正

2.諮問に至った経緯

機能性表示食品制度は、安全性及び機能性に関する一定の科学的根拠に基づき、事業者の責任において機能性関与成分によって健康の維持及び増進に資する特定の保健の目的が期待できる旨の表示ができる制度ですが、今般の小林製薬株式会社の紅麹関連製品に係る事案を踏まえ制度の信頼性を高める観点から、食品表示基準を一部改正するものです。

公表資料

食品表示法に基づく食品表示基準の一部改正に係る消費者委員会への諮問について

<https://www.caa.go.jp/notice/assets/food_labeling_cms206_240627_01.pdf>

関連リンク

消費者委員会への諮問

<https://www.caa.go.jp/policies/policy/food_labeling/other/>

問合せ先

消費者庁食品表示課　宗、森川

電話番号 03-3507-9138(直通)

**■食品表示の適正化に向けた取組について　2024/6/27**

<https://www.caa.go.jp/notice/entry/038469/>

　消費者庁は、食品衛生の監視指導の強化が求められる夏期において、食品の表示・広告の適正化を図るため、都道府県等と連携し、食品表示法等の規定に基づき下記の取組を実施することとしましたので、お知らせいたします。

公表資料

食品表示の適正化に向けた取組について

<https://www.caa.go.jp/notice/assets/food_labeling_cms203_240627_01.pdf>

関連リンク

食品表示について

<https://www.caa.go.jp/policies/policy/food_labeling/information/index.html#notice>

**■令和6年度第1回食品衛生基準審議会農薬・動物用医薬品部会(2024年6月25日)**

**2024/6/24**

<https://www.caa.go.jp/policies/council/fssc/pesticide/meeting-materials/review-meeting-001>

開催期間　2024年6月25日　15:00～18:00

場所　オンライン会議

事務局設置場所:共用1203会議室

(東京都千代田区霞が関3-1-1中央合同庁舎第4号館12階)

議題

1.食品中の残留農薬等に係る基準の設定について

2.その他

資料

議事

議事次第・資料一覧 [PDF:65KB]

配付資料

タイロシン(動物用医薬品)

資料1-1 農薬・動物用医薬品部会報告書(案) [PDF:470KB]

資料1-2 食品安全委員会における食品健康影響評価結果(全体版) [PDF:10MB]

分割版

資料1-2 1～31ページ [PDF:4.0MB]

資料1-2 32～72ページ [PDF:6.4MB]

フェニトロチオン(農薬及び動物用医薬品)

資料2-1 農薬・動物用医薬品部会報告書(案) [PDF:1.1MB]

資料2-2 食品安全委員会における食品健康影響評価結果 [PDF:1.3MB]

キノフメリン(農薬)

資料3-1 農薬・動物用医薬品部会報告書(案) [PDF:761KB]

資料3-2 食品安全委員会における食品健康影響評価結果 [PDF:1.3MB]

シフルメトフェン(農薬)

資料4-1 農薬・動物用医薬品部会報告書(案) [PDF:730KB]

資料4-2 食品安全委員会における食品健康影響評価結果 [PDF:562KB]

ピリベンカルブ(農薬)

資料5-1 農薬・動物用医薬品部会報告書(案) [PDF:826KB]

資料5-2 食品安全委員会における食品健康影響評価結果 [PDF:727KB]

フロメトキン(農薬)

資料6-1 農薬・動物用医薬品部会報告書(案) [PDF:689KB]

資料6-2 食品安全委員会における食品健康影響評価結果 [PDF:1.2MB]

動物用医薬品・飼料添加物の暫定基準見直し

資料7-1 農薬・動物用医薬品部会報告書(案) [PDF:623KB]

資料7-2 食品安全委員会における食品健康影響評価結果 [PDF:3.8MB]

発芽スイートルーピン抽出たんぱく質(農薬)

資料8-1 農薬・動物用医薬品部会報告書(案) [PDF:275KB]

資料8-2 食品安全委員会における食品健康影響評価結果 [PDF:602KB]

その他

2-デアミノ-2-ヒドロキシメチオニンイソプロピルエステル(飼料添加物)

資料9-1 農薬・動物用医薬品部会報告書(案) [PDF:297KB]

資料9-2 食品安全委員会における食品健康影響評価結果(全体版) [PDF:12.0MB]

分割版

資料9-2 1～29ページ [PDF:7.6MB]

資料9-2 30～55ページ [PDF:4.7MB]

資料10 食品中の農薬の残留基準値設定の基本原則について(案) [PDF:442KB]

**消費者庁リコール情報サイト**<https://www.recall.caa.go.jp/>

**（回収中か否かに関わらず、だいたい一回の掲載で消去します）****★紅麹関連**

**★いなげや（荒川東日暮里店）「サーモン西京漬、ぶり照焼きだれ漬」 - 返金／回収　ラベル誤貼付による「さけ、小麦、ゼラチン」の表示欠落　2024/7/4**

**★バンデロール「のっぽラスク（メイプル）」（杏林堂薬局店舗で販売） - 回収　賞味期限の誤表示（誤：26.06.26、正：24.06.26）　2024/7/4**

**★マール「美味爽やかバナナ」 - 回収　基準を超える農薬（ジノテフラン）を検出　2024/7/4**

**★日本百貨店「若狭葛ようかん 一枚流し」（京王百貨店 聖蹟桜ヶ丘店で販売） - 返金／回収　賞味期限の誤表示（誤：24.7.6、正：24.7.3）　2024/7/3**

**★DAY TO LIFE「ビアードパパ：ブラックモンブランシュー（シュークリーム）」 - 返金／回収　アレルゲン「落花生」の表示欠落　2024/7/3**

**★田中屋本店「笹だんご（つぶあん）」（新潟伊勢丹で販売） - 返金／回収　消費期限の誤表示（誤：24.8.2、正：24.7.3）　2024/7/3**

**★平塚製菓「トカチカラ 十勝ジャージーミルクケーキ」 - 返金／回収　個包装にピンホールが開いていることが判明　2024/7/3**

**★アジェンズ「Soy-PROTEIN+」 - 交換／回収　異物混入（石油製品系のブルーのテープ状の断片）　2024/7/2**

**★イオン九州（戸畑店）「ふじや食品 濃厚杏仁豆腐、ふじや食品 濃厚牛乳寒天」 - 返金／回収要冷蔵品を常温で販売　2024/7/1**

**★双葉産業「スナック菓子：津味鍋巴　醤汁牛肉味」 - 返金／回収　食品衛生法で使用が認められていない食品添加物TBHQが0.001g/㎏検出されたため　2024/6/28**

**★ロイヤルホテル「【冷凍食品】リーガロイヤルホテル 焼売」 - 交換／回収　アレルゲン「ごま」の表示欠落　2024/6/28**

**★前田菓子舗「ラクガンあん入り、あんいりらくがん」 - 返金／回収　アレルゲン「小麦」の表示欠落　2024/6/28**

**★山栄食品工業「風味豊かなやわらかほたて旨煮」 - 返金／回収　製造工程の加熱が不十分であった可能性があるため　2024/6/28**

**★森永製菓「マンナボーロ」 - 返金／回収　製造工程において異物が混入したおそれがあるため　2024/6/28**

**★ローヤル「メキシコ産ぶどう」 - 回収　残留農薬（エテホン）の基準超過（検出値：3.6ppm、ぶどうの基準値：1ppm）　2024/6/27**

**★藤田食品「国産大豆100%生どうふきぬ」 - 交換／回収　異物の混入　2024/6/27**

**６.** **[食中毒・感染症](#食中毒・感染症)**

<https://news.yahoo.co.jp/articles/8068a715873c6ec58e1b8a24b767bfef42745261>

**■：行政発表が見つからなかったもの　　■：行政発表**

**★細菌性食中毒★**

**■西宮の障害者就労支援施設で食中毒、7人軽症　調理された丼など食べ、カンピロバクター検出**

**7/4(木) 20:15配信　神戸新聞NEXT　兵庫県西宮市**

**カンピロバクター**

<https://news.yahoo.co.jp/articles/308fa1557e94f9d010a24014e9d41869200b600d>

**■石川県七尾市の人気飲食店で腸管出血性大腸菌O157による食中毒が発生**

**7/3(水) 20:22配信　石川テレビ　石川県七尾市**

**腸管出血性大腸菌O157**

<https://news.yahoo.co.jp/articles/6df7182dfe65b837a0dfbe48bad77a07d7f44918>

**食中毒事故の発生について　令和６年７月３日　薬事衛生課　石川県七尾市**

**腸管出血性大腸菌O157**

<https://www.pref.ishikawa.lg.jp/kisya/r6-1/documents/0703_yakujieisei.pdf>

１ 発生年月日　令和６年６月２４日(月)

２ 原因施設

屋 号：ごはん処 一歩

所在地：七尾市

業 種：飲食店営業

３ 発生の端緒

令和６年６月３０日（日）１１時３０分頃、石川中央保健福祉センターに、内灘町内の医療機関から、「２７日（木）に下痢（血便）を訴え受診した患者から、腸管出血性大腸菌Ｏ１５７が検出され、２１日（金）に七尾市内の飲食店を友人と利用していた。」旨の連絡があり、当該店舗を管轄する能登中部福祉センターが調査を開始した。

４ 調査内容

能登中部保健福祉センターが調査した結果、

・６月２１日(金)に当該施設を利用した２グループ７名中５名が腹痛、下痢等の食中毒様症状を呈していること

・患者らに共通する飲食物は、当該施設が調理、提供した食事以外にないこと

・２名の患者便及び１名の調理従事者便から、腸管出血性大腸菌Ｏ１５７が検出されたこ

　と

・患者らの症状及び潜伏期間が腸管出血性大腸菌によるものと一致したこと

・患者を診察した医師から食中毒等発生届の提出があったこと

から、当該施設を原因とする食中毒と断定した。

５ 患 者　５名（男性４名、女性１名：２０～６０代）

うち医療機関受診５名。患者は全員回復傾向にある。

６ 主な症状　下痢、腹痛など

７ 原因食品　６月２１日（金）に当該施設が調理、提供した食事（調査中）

８ 病因物質　腸管出血性大腸菌Ｏ１５７

９ 措 置

能登中部保健福祉センターでは、当該施設を７月３日(水)から７月５日(金)までの３日間、営業停止処分にするとともに、汚染の恐れのある食品の廃棄、当該施設の清掃、消毒及び従業員に対する衛生教育の実施を指示した

参考 食中毒発生状況

令和６年度(４月から本日まで本件を含む) １３件 患者 １１９名(うち金沢市５件 ８４名)

令和５年度同期 ３件 患者 ４名(うち金沢市０件 ０名)

令和５年度通年 １６件 患者 ９７３名(うち金沢市４件 １７名)

**■熊本市の障害者支援施設で集団食中毒 給食を提供した業者を営業停止処分**

**6/29(土) 18:35配信　TKUテレビ熊本　熊本県熊本市**

**腸管病原性大腸菌**

<https://news.yahoo.co.jp/articles/a6bc431f153b166d769f56c23dbfe783dd36b00b>

**障害者支援施設で集団食中毒　23人に症状　給食が原因**

**6/29(土) 18:02配信　RKK熊本放送****熊本県熊本市**

**腸管病原性大腸菌**

<https://news.yahoo.co.jp/articles/20da9460739c363f7ed9604b47398cd55f0e3e70>

**障がい者支援施設で食中毒 23人が症状訴える 原因は施設内で調理された給食 熊本市**

**6/29(土) 17:52配信　ＫＫＴ熊本県民テレビ****熊本県熊本市**

**腸管病原性大腸菌**

<https://news.yahoo.co.jp/articles/0e332d27a7ae355f8e072036e0432cb4510140e2>

**【報道資料】障がい者支援施設の給食による食中毒発生に伴う営業停止処分について**

**最終更新日：2024年7月1日　政策局　秘書部　広報課　熊本県熊本市**

**腸管病原性大腸菌**

<https://www.city.kumamoto.jp/hpKiji/pub/detail.aspx?c_id=5&id=56082&class_set_id=2&class_id=3956>

<https://www.city.kumamoto.jp/common/UploadFileDsp.aspx?c_id=5&id=56082&sub_id=1&flid=402891>

本日、食中毒発生に伴い、事業者への営業停止処分を行いましたので、お知らせします。

1　概要

（1）探知

　　令和6年（2024年）6月22日（土）、熊本市内の障がい者支援施設の職員から熊本市保健所に「6月21日（金）夜から翌日22日（土）の明け方にかけて入所者17名が嘔吐、下痢、発熱の症状を呈している。」との連絡がありました。

（2）調査

　　調査の結果、有症者は23名で6月21日（金）から6月23日（日）にかけて集中して発症しており、嘔吐、下痢、発熱などの症状を呈していました。また、有症者23名は全員が障がい者支援施設の入所者であり、施設内で調理された給食を食べていることが判明しました。

　　なお、有症者が発症する前に施設内において感染症を疑うような事例は確認されませんでした。

（3）決定

有症者の共通食は施設内で調理された給食のみであり、有症者の検便検査結果、喫食状況や発症状況などから、この施設で調理された給食を原因とする食中毒と断定し、給食の調理を行っていた事業者に対して営業停止を命じました。

2　有症者の状況

（1）発症日時　　令和6年（2024年）6月21日（金）20時15分（初発）

（2）主な症状　　嘔吐、下痢、発熱

（3）有症者数　　23名（男性14名、女性9名、年齢30歳代～80歳代）

（4）その他　　　医師の診察受診者23名（入院者0名）。有症者全員現在は回復している。

3　原因食品　　　当該施設で調理された給食（食品などの特定に関しては調査中）

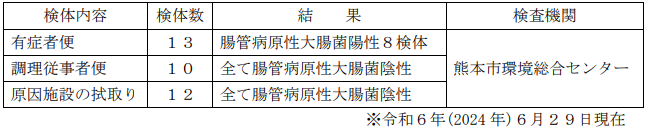
4　病因物質　　　腸管病原性大腸菌

5　原因施設（1）名称 障がい者支援施設　朋暁苑(ほうぎょうえん)

　　　　　　（2）業種 飲食店営業（一般食堂）

　　　　　　（4）営業所所在地 熊本市

6　措置等　　　　営業停止　令和6年（2024年）6月29日（土）から6月30日（日）

【備考】

【参考】熊本市における食中毒の発生状況（ただし、本件は含まない。）



《腸管病原性大腸菌による食中毒について》

〔特徴〕　大腸菌は人や動物の腸管に存在し、通常病原性はないが、いくつかの大腸菌は人に対して病原性があり、これらを総称して病原大腸菌と呼んでいます。腸管病原性大腸菌は、この病原大腸菌の中の一つですが、O157などの腸管出血性大腸菌とは別の種類のものです。

人や家畜が保菌している場合があり、これらの糞便に汚染された食品や手指などからの二次汚染によりあらゆる食品が原因となる可能性があります。熱に弱いため、通常の加熱処理で死滅します。

〔症状〕　潜伏時間は12～72時間。下痢、腹痛、発熱など。乳幼児ではしばしば重症化することがあります。

〔対策〕　一般的な食中毒予防で対応できます。そのため、食中毒予防の三原則の「つけない」「増やさない」「やっつける」を徹底して下さい。

　　　　　・「つけない」：手洗いの徹底、器具の洗浄消毒の徹底など

　　　　　・「増やさない」：低温での保存など

　　　　　・「やっつける」：十分な加熱など

**■飲食店のキーマカレー弁当で「ウエルシュ菌」による食中毒　10歳未満～70代の41人に症状　保健所「カレー、シチューなどの煮込み料理は調理したらなるべく早く」**

**6/29(土) 18:57配信　NBS長野放送　長野県上田市**

**ウエルシュ菌**

<https://news.yahoo.co.jp/articles/e7ae9b0a6e65151ede403b6c110496137691d775>

**上田保健所管内の飲食店でウエルシュ菌による食中毒が発生しました　長野県（健康福祉部）プレスリリース令和6年（2024年）6月29日****長野県上田市**

**ウエルシュ菌**

<https://www.pref.nagano.lg.jp/shokusei/happyou/ch240629.html>

<https://www.pref.nagano.lg.jp/shokusei/happyou/documents/ch240629.pdf>

　本日、上田保健所は上田市内の飲食店「そえるcafe」を食中毒の原因施設と断定し、当該施設の営業者に対し令和6年6月29日から令和6年7月1日まで、3日間の営業停止を命じました。

患者は、6月22日に当該施設が調理、提供したキーマカレー弁当を喫食した2グループ49名中の2グループ41名で、長野保健所が行った検査により、患者便及び弁当の残品からウエルシュ菌が検出されました。なお、患者は全員快復しました。

【事件の探知】

令和6年6月23日午前8時45分頃、飲食店「そえるcafe」の営業者から「6月22日に自社で調理、提供したキーマカレー弁当を食べた者のうち20名程が体調不良を呈している。」旨の連絡がありました。

【上田保健所による調査結果概要】

・患者は、6月22日に当該施設で調理、提供されたキーマカレー弁当を喫食した2グループ49名中の2グループ41名で、同日午後1時頃から、下痢、腹痛等の症状を呈していました。

・患者は、当該施設で調理し、提供されたキーマカレー弁当を共通して喫食していました。

・長野保健所が行った検査により、患者便及び弁当の残品からウエルシュ菌が検出されました。

・患者の症状は、ウエルシュ菌による食中毒の症状と一致していました。

・患者を診察した医師から食中毒の届出がありました。

以上のことから、上田保健所は当該施設で調理、提供されたキーマカレー弁当を原因とする食中毒と断定しました。

関連資料

240629プレスリリース資料

　患者関係

　　発 症 日 時　６月 22 日 午後１時頃から

患 者 症 状　下痢、腹痛等

患者所在地　上田市、東御市、小県郡、他

患 者 数及 び 喫 食 者 数　患者数／喫食者数：41 名／49 名

（患者内訳）男性：13 名（年齢：10 歳未満～70 歳代）

女性：28 名（年齢：30 歳代～70 歳代）

入 院 患 者 数　０名

医療機関受診者数　３名（受診医療機関数：３か所）原因食品　令和６年６月 22 日に当該施設で調理、提供されたキーマカレー弁当

病因物質　ウエルシュ菌（エンテロトキシン産生）

原因施設

施 設 名　そえるｃａｆｅ

施設所在地　上田市

営業許可業種　飲食店営業

措置　食品衛生法に基づく営業の停止

令和６年６月 29 日から令和６年７月１日まで３日間

（この施設は６月 24 日から営業を自粛しています。）［参 考］　患者へ提供されたメニュー　キーマカレー、ゆで卵、玄米ご飯、ピクルス

検査結果 ウエルシュ菌（エンテロトキシン産生）

　患者便：８検体中８検体から検出

食品：４検体中２検体から検出

　［参 考］長野県内（長野市・松本市含む）における食中毒発生状況（本件含む）



**■高齢者施設の給食で「ウエルシュ菌による食中毒」　70代以上の入所者など34人が症状訴える　保健所「加熱したから大丈夫といった過信は禁物」6/28(金) 18:44配信　NBS長野放送**

**長野県諏訪市**

**ウエルシュ菌**

<https://news.yahoo.co.jp/articles/903b34616b6e2433e441f12fd0f76612f27e1f6b>

**諏訪保健所管内の社会福祉施設でウエルシュ菌による食中毒が発生しました　長野県（健康福祉部）プレスリリース令和6年（2024年）6月28日　長野県諏訪市**

**ウエルシュ菌**

<https://www.pref.nagano.lg.jp/shokusei/happyou/ch240628.html>

<https://www.pref.nagano.lg.jp/shokusei/happyou/documents/ch240628.pdf>

　　本日、諏訪保健所は、諏訪市内の社会福祉施設「ウィズ諏訪」を食中毒の原因施設と断定し、当該施設の給食業務委託事業者に対し令和6年6月28日から令和6年6月29日まで、2日間の営業停止を命じました。

患者は、6月20日に当該施設で調理、提供された食事を喫食した入居者ら85名中の34名で、松本保健所が行った検査により、患者便及び調理従事者便からウエルシュ菌が検出されました。

なお、患者は全員快方に向かっています。

【事件の探知】

令和6年6月21日午前9時30分頃、当該施設職員から、「施設の給食を食べている入所者60名中30名が昨夜から下痢を呈している。」旨の連絡が諏訪保健所にありました。

【諏訪保健所による調査結果概要】

・患者は、6月20日に当該施設で調理、提供された食事を喫食した85名中34名で、同日午後6時頃から、下痢、腹痛、嘔吐、発熱の症状を呈していました。

・患者は、当該施設で調理し、提供された食事を共通して喫食していました。

・松本保健所が行った検査により、患者便及び調理従事者便からウエルシュ菌が検出されました。

・患者の症状は、ウエルシュ菌による食中毒の症状と一致していました。

・患者を診察した医師から食中毒の届出がありました。

以上のことから、諏訪保健所は当該施設で調理し、提供された食事を原因とする食中毒と断定しました。

関連資料

240628プレスリリース資料

　患者関係

　　発 症 日 時　６月 20 日 午後６時頃から

患 者 症 状　下痢、腹痛、嘔吐、発熱

患者所在地　諏訪市

患 者 数及 び 喫 食 者 数　患者数／喫食者数：34 名／85 名

（患者内訳）男性：７名（年齢：70 歳代～80 歳代以上）

女性：27 名（年齢：20 歳代～80 歳代以上）

入 院 患 者 数　０名

医 療 機 関 の 受 診　往診により受診

原因食品　令和６年６月 20 日に当該施設で調理、提供された食事

病因物質　ウエルシュ菌（エンテロトキシン産生）

原因施設

施 設 名　ウィズ諏訪

施設所在地　諏訪市

営業許可業種　飲食店営業

措置

食品衛生法に基づく営業の停止　令和６年６月 28 日から令和６年６月 29 日まで２日間

（この施設は６月 27 日昼食から営業を自粛しています。）

　［参 考］

　　患者へ提供されたメニュー

【令和６年６月 20 日朝食】ごはん、なすのそぼろあん、黒豆、味噌汁、コーヒー牛乳

【令和６年６月 20 日昼食】ごはん、豚のおろし焼肉、ひじきの煮付け、春菊のゴマ和え、吸

　　　　　　　　　　　　　物

【令和６年６月 20 日夕食】ごはん、五目卵焼き、花野菜のくず煮、チンゲン菜土佐和え、味

噌汁

検査結果　ウエルシュ菌（エンテロトキシン産生）

　患者便：10 検体中 10 検体から検出

従事者便：６検体中１検体から検出

　［参 考］長野県内（長野市・松本市含む）における食中毒発生状況（本件含む）

**★ウイルスによる食中毒★**

**■**

**★寄生虫による食中毒★**

**■飲食店営業施設等に対する不利益処分等**

**営業施設に対し、品川区が行った不利益処分等についてお知らせします　2024/7/3　品川区**

<https://www.city.shinagawa.tokyo.jp/PC/kenkou/kenkou-eisei/kenkou-eisei-syokuhin/hpg000025581.html>

　公表年月日　令和6年7月3日

被処分者業種等 飲食店営業

施設の名称および施設の所在地

坊乃

東京都品川区

適用条項

食品衛生法（食品衛生法等の一部を改正する法律（平成30年法律第46号）第2条の規定による改正前の食品衛生法（昭和22年法律第233号）。以下「法」という。）第6条第3号の規定に違反するので、法第55条第1項の規定を適用

※食品衛生法等の一部を改正する法律の一部の施行に伴う関係政令の整備及び経過措置に関する政令（令和元年政令第123号）附則第2条の規定により、なお従前の例により当該営業を行うことができるとされた者であるから、当該営業者に対する不利益処分については、この法を適用する。

不利益処分を行った理由　食中毒の発生

不利益処分等の内容　令和6年7月3日の1日間の営業の一部停止

（一部：生鮮魚介類（冷凍品を除く）の生食用での調理、提供に限る。※冷凍品とは－20℃で24時間以上冷凍をしたものをいう。）

備考

原因食品：しめさば

病因物質：アニサキス

**■アニサキスは醤油やわさびでは死なないと呼びかけ…石川県小松市の飲食店でアニサキスによる食中毒　7/2(火) 16:16配信　石川テレビ****石川県小松市**

**アニサキス**

<https://news.yahoo.co.jp/articles/1be5673f22995dac0f4d73f4119206fcbf48459a>

**食中毒事故の発生について　2024/7/2　薬事衛生課　石川県小松市**

**アニサキス**

<https://www.pref.ishikawa.lg.jp/kisya/r6-1/documents/0702_15_yakujieisei.pdf>

　１ 発生年月日（患者の初発年月日）　令和６年６月３０日（日）

２ 原因施設

屋 号：えんや亭

所在地：小松市

業 種：飲食店営業

３ 発生の端緒

７月１日（月）１１時４５分頃、南加賀保健福祉センターに、小松市内の医療機関から、「６月３０日（日）に腹痛、悪寒になり、７月１日（月）に受診した患者の胃から、アニサキス寄生虫を摘出した」旨の連絡があった。

４ 調査内容

南加賀保健福祉センターの調査では、

・ 患者が腹痛、悪寒、嘔吐の食中毒症状を呈していること

・ 患者の胃からアニサキスが摘出され、医師から食中毒等患者届出票が提出されたこと

・ 患者の症状及び潜伏時間が胃アニサキス症と一致していること

・ 胃アニサキス症の原因となる生鮮魚介類の喫食は当該施設で提供した刺身以外にないこと

以上のことから、当該施設が調理、提供した食品を原因とする食中毒と判断した。

５ 患 者　１名（男性 ３０代）

　患者は医療機関を受診したが、入院しておらず、回復傾向にある。

６ 主な症状　腹痛、悪寒、嘔吐

７ 原因食品　６月２９日(土)に当該施設が調理、提供した刺身

８ 病因物質　アニサキス

９ 措 置

南加賀保健福祉センターでは、７月２日(火)の１日間、当該施設を営業停止処分にするとともに、汚染の恐れのある食品の廃棄と、従業員に対する衛生教育の実施を指示した。

参考 食中毒発生状況

令和６年度(４月から本日まで本件を含む) １２件 患者 １１４名(うち金沢市５件 ８４名)

令和５年度同期 ３件 患者 ４名(うち金沢市０件 ０名)

令和５年度通年 １６件 患者 ９７３名(うち金沢市４件 １７名)

**■不利益処分等のお知らせ　2024/7/1　港区**

<https://www.city.minato.tokyo.jp/shokuhinkanshi1/kurashi/shokuhin/anzen/kyoka.html>

　公表年月日　令和6年7月1日

業種等 飲食店営業(\*注1)

施設の名称及び施設の所在地

施設の名称　　かがみ

施設の所在地　東京都港区

不利益処分等を行った理由 食中毒の発生

原因食品　令和6年6月11日に調理し、提供したすし握りコース

原因物質　アニサキス

主な適用条項　食品衛生法第6条第3号の規定に違反するので改正前同法第55条第1項

(\*注2)を適用

不利益処分等の内容及び停止を命令する営業の内容

不利益処分等の内容　令和6年7月1日（1日間）の営業の一部停止命令

停止を命令する営業の内容　生食用鮮魚介類（冷凍品を除く。）の調理、提供。

なお、冷凍品とは－20℃以下で24時間以上の冷凍をしたものをいう。

備考　公表時の患者数　1名

アニサキスは海産哺乳動物を終宿主とする寄生虫です。サバ、イワシ、アジ、サンマ、スルメイカ等の魚介類には幼虫のままで寄生します。アニサキス症はアニサキスが寄生した魚介類を生食することにより感染し、多くが8時間以内に激しい腹痛や吐き気、おう吐等の症状を引き起こします。アニサキスは酢やわさび、しょうゆでは死にませんが、－20℃で24時間以上の冷凍又は加熱により食中毒を防ぐことができます。

(\*注1)令和元年政令第123号の附則第2条の規定により、なお従前の例による営業

(\*注2)平成30年法律第46号の第2条の規定による改正前の食品衛生法

**■飲食店で食中毒、ヒラメの刺し身食べた女性11人…寄生虫検出**

**6/30(日) 11:15配信　読売新聞オンライン　岡山県倉敷市**

**クドア・セプテンプンクタータ**

<https://news.yahoo.co.jp/articles/6ec442df16341a7d8d3dbe86d3b43de633b14453>

**岡山県倉敷市の飲食店で食中毒症状　11人が下痢や腹痛 全員快方へ**

**6/29(土) 17:43配信　山陽新聞デジタル****岡山県倉敷市**

**クドア・セプテンプンクタータ**

<https://news.yahoo.co.jp/articles/83c8e3036840e69332f7063bb271aad514e18bb4>

**記者クラブ発表資料　2024/6/29　倉敷市保健所生活衛生課　岡山県倉敷市**

**クドア・セプテンプンクタータ**

<https://www.city.kurashiki.okayama.jp/secure/168230/houdouhappyou.pdf>

事 件 名　倉敷市内の飲食店を原因とする食中毒事件の発生について

事件の概要

令和６年６月２７日（木）正午頃、市内の飲食店「よこ田」の営業者から、店を利用した複数名が下痢の症状を呈しているとの連絡があった。

調査したところ、６月２６日（水）に「よこ田」で喫食した１グループ１３名の内、１１名が下痢、腹痛、吐き気等の食中毒症状を呈していることが判明した。

有症者に共通した食事は他には無いこと、患者便からクドア・セプテンプンクタータ（以下「クドア」という。）が検出されたこと、また、患者の症状等がクドアによる食中毒の特徴と一致することから、「よこ田」を原因とする食中毒と断定した。

倉敷市保健所は営業者に対し衛生注意指導を行った。なお、原因食品と推定される刺身を廃棄したことにより食中毒の拡大・再発防止対策が講じられていること、立入検査の結果、原因施設の衛生管理及び食品の取扱いに問題は認められなかったことから、営業停止処分は行わない。

調査者数　１３名（４０才代～６０才代、女性）

有症者数　１１名（４０才代～６０才代、女性）

初発有症者

住所：市外（小田郡矢掛町） 性別：女性 年齢：４０才代

発病年月日：令和６年６月２６日（水）

症状：下痢

原因施設

所 在 地：倉敷市

屋 号：よこ田

営業の種類：飲食店営業

献立　刺身（ヒラメ、シマアジ、マグロ）、なすの揚げ浸し、稚鮎の揚げ物、雑炊、鯛のお吸い物、豚の角煮、突出し

原因食品　令和６年６月２６日（水）に提供された刺身（推定）

検査物等

施設内ふきとり：１０検体

食品：６検体

水：１検体

有症者検便：８検体

従業員検便：１検体

病因物質　クドア・セプテンプンクタータ

行政措置

６月２７日（木）施設に立入し、現状確認と衛生注意指導を実施

６月２９日（土）文書にて衛生注意指導。施設に立入し、改善を確認。

参考事項

倉敷市内食中毒発生状況

令和４年度 １件 ３名（うち死者 ０名）

令和５年度 ２件 ５６名（うち死者 ０名）

令和６年度 ０件 ０名（本件含まず）

**■令和6年高崎市食中毒発生状況（速報）市内の飲食店で発生した食中毒事件について**

**2024/6/28　群馬県高崎市**

**アニサキス**

<https://www.city.takasaki.gunma.jp/page/4524.html>

　　令和6年6月27日（木曜日）午後0時30分頃、市内医療機関より「腹痛症状で来院した患者を診察したところ、アニサキスを摘出した」旨、高崎市保健所に連絡がありました。

調査の結果、患者は6月26日（水曜日）午後8時30分頃に当該店舗で調理・提供された刺身等を喫食していたことが判明しました。

患者の症状及び潜伏期間がアニサキスによるものと一致していたこと、アニサキスが寄生している可能性がある食品の喫食は当該店舗が調理・提供した刺身に限られたこと、患者を診察した医師から食中毒（胃アニサキス症）届出票が提出されたことから、当該店舗が調理・提供した食品による食中毒と断定し、1日間の営業停止処分を行いました。

原因食品　刺身（しめさば）

施設の名称及び所在地

名称：前田屋

所在地：高崎市

行政処分を行った理由

令和6年6月26日（水曜日）に当該店舗において調理・提供された食品を喫食した1名に対し、激しい腹痛を主症状としたアニサキスによる健康被害を生じさせたため。

行政処分の内容　営業停止　1日間（令和6年6月28日（金曜日））

**★自然毒による食中毒★**

**■**

**★化学物質による食中毒★**

**■**

**★細菌による感染症★**

**■腸管出血性大腸菌感染症の発生について　令和６年７月２日 １６：００ 現在**

**保健医療局 保健所 感染症対策課　福岡県福岡市**

**感染症　腸管出血性大腸菌感染症（O157：VT2）**

<https://www.city.fukuoka.lg.jp/data/open/cnt/3/124297/1/060702O157.pdf?20240704122631>

　中央区内の医療機関から腸管出血性大腸菌感染症の発生届出がありましたのでお知らせします（入院事例）。

１ 概 要

６月２４日（月） 城南区居住の 60 歳代女性に水様便の症状が出現。

６月２６日（水） 症状が続くため、中央区の医療機関Ａを受診。

医療機関の紹介で、中央区の医療機関Ｂを受診・入院。

７月 ２日（火） 医療機関Ｂによる検査の結果、腸管出血性大腸菌感染症（O157：VT2）と判明。

医療機関Ｂが福岡市保健所に腸管出血性大腸菌感染症発生届を提出。

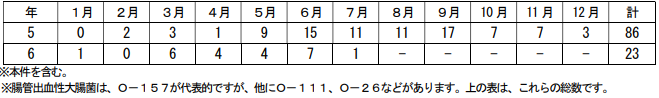
福岡市保健所が患者等の健康調査、感染拡大防止の指導等を実施。

２ 患者の状況　入院治療中だが、快方に向かっている。

３ 行政対応　患者の健康調査、接触者調査及び感染拡大防止の指導を実施。

４ 原因　調査中

腸管出血性大腸菌感染症患者・感染者の福岡市への届出状況（令和６年７月２日現時点）



**■腸管出血性大腸菌感染症患者の発生について2024/7/2　岡山市広報連絡資料　岡山県岡山市感染症　腸管出血性大腸菌Ｏ１０３**

<https://www.city.okayama.jp/shisei/cmsfiles/contents/0000062/62437/20240702_O103.pdf>

　１ 発 生 日　発生 令和６年６月２６日（水） 速報 令和６年７月２日（火）

２ 患 者 数　１名 （女、２０代）

３ 概 要

(1)経 過

６月２６日（水） 患者（岡山市）は、発熱、腹痛及び水様便の症状を呈した。

６月２７日（木） 患者は症状が改善しないため、岡山市内医療機関（診療所）を受診。

７月 1 日（月） 検査の結果、腸管出血性大腸菌（Ｏ１０３）によるベロ毒素産生が確認されたため、岡山市保健所に届出。

(2)その他

・患者の症状は軽症化している。

　　・感染源は不明。

　　・現在のところ散発事例と考えている。

４ 参 考（患者発生状況）



**■腸管出血性大腸菌感染症の発生について（令和６年 第４報）　2024/7/2　福井県健康福祉部健康医療局保健予防課　福井県**

**感染症****腸管出血性大腸菌Ｏ１０３**

<https://www2.pref.fukui.lg.jp/press/atfiles/padW1719888540d0.pdf>

　１ 概 要

令和６年７月１日、県内の医療機関から、患者から腸管出血性大腸菌Ｏ１０３およびベロ毒素を検出した旨、届出があり、患者の健康状態、行動等についての調査を実施した。

２ 患者等の状況

1. 患 者：県内在住の男性 １人

症 状：なし（無症状病原体保有者）



1. 接触者の健康状況　４人症状なし。（４人に対し検便実施）

３ 発生に伴う対応

1. 本人の健康状態、行動および喫食状況を調査
2. 衛生教育の実施
3. 自宅等の消毒の指示 ※食中毒については、その可能性も含め医薬食品・衛生課（0776-20-0354） で調査中です。

４ 腸管出血性大腸菌感染症の発生状況



**■細菌性赤痢患者が発生しました　2024/7/1　疾病感染症対策課　岡山県**

**感染症　細菌性赤痢**

<https://www.pref.okayama.jp/uploaded/life/925242_8857090_misc.pdf>

　発生場所　備中保健所管内

患 者　１名（女、４０歳代）

発症年月日　令和６年６月２２日

速報年月日　令和６年７月１日

措 置そ の 他

○患者は６月２２日から発熱、腹痛、水様性下痢の症状があった。

○６月２４日に医療機関を受診し、検査していたところ、６月２８日に細菌性赤痢と診断されたため、届出があった。

○現在、症状は回復している。

○接触者については、現在調査中である。

○海外渡航歴はない。

備 考

○岡山県内の本年患者等累計（本件を含む）：１名

（参考）

令和５年：１名

**■園児と職員計20人が症状訴え　一関保健所管内の保育施設で腸管出血性大腸菌（O111）感染症が集団発生　岩手県内で7年ぶり　早めの受診を　6/28(金) 18:51配信　IBC岩手放送**

**岩手県**

**感染症　腸管出血性大腸菌O111**

<https://news.yahoo.co.jp/articles/7772e673d44e73d441a2656ebcf26425ae014fb9>

**★ウイルスによる感染症★**

**■ダニ媒介脳炎また発生、函館70代男性、5月に山菜採り　国内7例目**

**7/4(木) 11:00配信　朝日新聞デジタル****北海道函館市**

**感染症　ダニ**

<https://news.yahoo.co.jp/articles/6e1602fca94501c0bcece20ff9a90c093889306f>

**ダニ媒介脳炎患者（国内７例目）の発生について　2024/7/3　北海道函館市**

**感染症　ダニ**

<https://www.city.hakodate.hokkaido.jp/docs/2024070200038/file_contents/0703-04.pdf>

　　令和６年７月１日（月），函館市内の医療機関から，市内居住者に係るダニ媒介脳炎患者発生の届出がありましたのでお知らせいたします。本件は，国内７例目（いずれも道内）の発生となります。

概要については，次のとおりです。報道方よろしくお願いいたします。

１ 本事例の概要

(1) 患者の年齢等　市内居住，70 歳代，男性

(2) 患者のダニ刺咬歴　不明

(3) 経過

５月下旬 道南圏域で山菜採りを行ったが，ダニに咬まれたかは不明。

５月 31 日(金) 左上下肢のしびれなどの症状を発症。

６月 24 日(月) 患者の行動歴・臨床症状などから医師がダニ媒介脳炎を疑い，医療機関が市立函館保健所に連絡。

６月 26 日(水) 北海道立衛生研究所と北海道大学で検査を実施。

７月１日 (月) 検査の結果，陽性と判明。医療機関が市立函館保健所に発生届を提出。

(4) 患者の症状等　麻痺，意識障害，痙攣，髄膜炎，脳炎，筋力低下

２ ダニ媒介脳炎の発生状況



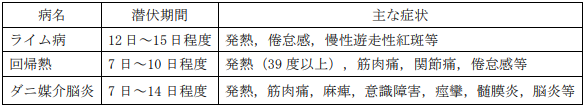
　ダニ媒介感染症の概要について

１ 北海道のマダニが媒介する感染症

マダニは，森林や草地など屋外に生息する比較的大型（成虫の体長 3～8mm 程度）の　ダニで，生息場所に近づいた動物や人に寄生し吸血します。ダニ媒介感染症の原因となる病原体を保有していることがあり，咬まれると感染することがあります。

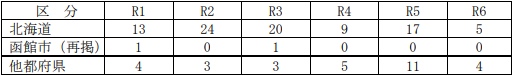
北海道内では，ライム病，回帰熱，ダニ媒介脳炎の患者が確認されています。

なお，これらの感染症は，通常，人から人に感染することはありません。

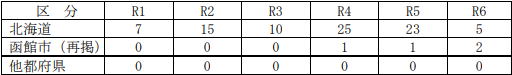


　２ 主なダニ媒介感染症発生状況（届出数） ※R6は，第25週（6月23日）まで

（1）ライム病　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　（人）



（2）回帰熱　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　 （人）



**■ノロウイルスによる感染性胃腸炎の集団発生　県北健康福祉センター管内の認定こども園**

**7/2(火) 10:50配信　とちぎテレビ****栃木県大田原市**

**感染症　ノロウイルス**

<https://news.yahoo.co.jp/articles/0cb486dfa80ea76d88ac5a796e3430d704471838>

**感染性胃腸炎の集団発生について　2024/7/1　栃木県大田原市**

**感染症　ノロウイルス**

<https://www.pref.tochigi.lg.jp/e04/kansensaiyou/documents/20240701kannsennseiichouen.html>

　概 要

感染症名：感染性胃腸炎(5類感染症)【原因病原体：ノロウイルス】

・集団発生の時期：令和6(2024)年6月15日(初発)

・集団発生の場所：県北健康福祉センター管内の認定こども園

・発症の状況：令和6(2024)年6月15日～令和6(2024)年7月1日、計30名（園児28名、職員2名）

・経過：

　　　 令和6(2024)年6月25日、県北健康福祉センター管内の認定こども園から複数の園児及び職員が嘔吐、下痢等の症状を呈しているとの連絡があり、同日、同センターで調査及び指導を実施した。

　　また、7月1日に保健環境センターにおいて4名の検体（便）の検査を実施した結果、4名の検体からノロウイルスが検出された。重症者はなく、発症者は全員快方に向かっている。

県の対応

　　県北健康福祉センターでは、当該情報の探知後、当該施設における予防対策（園児及び職員の健康管理、手洗い等の励行、汚物等の適切な処理等の迅速な対応）及び消毒について、指導等を実施するとともに、当該施設における発症者等の調査、原因追及のための感染源の調査を実施した。

栃木県内で報告のあった感染性胃腸炎集団発生（30名以上の患者報告数）状況

（宇都宮市を含む）

令和元年10施設（高齢者施設1、障害者施設1、小学校1、学校1、保育所6）

令和2年0施設

令和3年12施設（障害者施設1、保育所7、認定こども園4）

令和4年3施設（保育所2、認定こども園1）

令和5年15施設（高齢者施設1、保育所7、認定こども園7）

令和6年9施設（高齢者施設2、認定こども園4、小学校3）※今回発生事例含む

【参考】県健康福祉センター及び宇都宮市保健所の管轄区域

・県西健康福祉センター：鹿沼市、日光市

・県東健康福祉センター：真岡市、益子町、茂木町、市貝町、芳賀町

・県南健康福祉センター：小山市、上三川町、下野市、野木町、栃木市、壬生町

・県北健康福祉センター：大田原市、那須町、那須塩原市、矢板市、塩谷町、さくら市、高根沢町、那須烏山市、那珂川町

・安足健康福祉センター：足利市、佐野市

・宇都宮市保健所：宇都宮市

**■感染性胃腸炎の集団発生について　令和６年７月１日 １６：００現在**

**保健医療局 保健所 感染症対策課　福岡県福岡市**

**感染症　ノロウイルス**

<https://www.city.fukuoka.lg.jp/data/open/cnt/3/124297/1/060701noro.pdf?20240704122631>

博多区内、東区内の保育施設で、複数の園児及び職員が嘔吐、下痢等の症状を呈しているとの報告があり、医療機関による検査の結果、ノロウイルスが検出された。

１ 博多区内の保育施設

（１）経緯

６月２６日（水） １名の園児に嘔吐、発熱の症状が出現。

　　　　　　　　　　以後、複数の園児及び職員に嘔吐、下痢等の症状が出現。

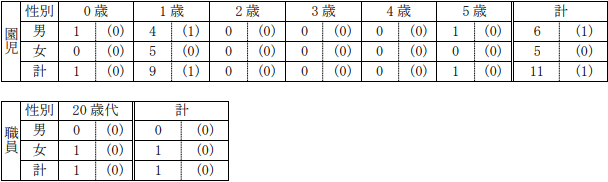
６月２８日（金） 当該施設より、複数の園児及び職員が嘔吐、下痢等の症状を呈していると報告あり。

博多保健所が感染拡大防止及び患者等の健康観察の実施を指導した。

７月 １日（月） 当該施設より、医療機関による検査の結果ノロウイルスが検出されたと報告があった。

福岡市保健所が有症状者の発生状況を確認し、感染拡大防止について再指導した。

（２）有症状者の区分 ※( )内の数は、有症状者のうち、ノロウイルスが検出された人数



（３）有症状者の発症状況



（４）症状　嘔吐、下痢、発熱 ※重症者はなく、全員快方に向かっている。

（５）行政対応

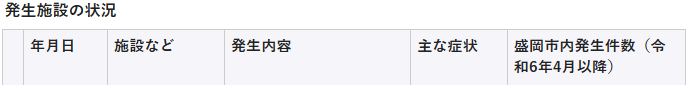
① 施設への感染予防及び拡大防止のための指導を実施。

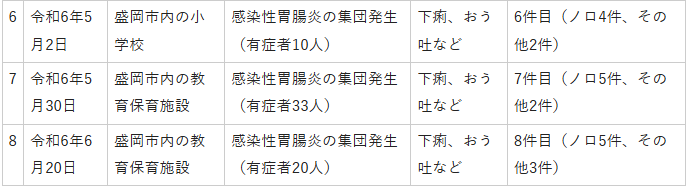
② 園児及び家族、職員の健康調査及び健康観察を実施するよう施設へ指導

**■令和6年度感染性胃腸炎の集団発生について　2024/6/20　岩手県盛岡市**

**感染症　感染性胃腸炎**

<https://www.city.morioka.iwate.jp/kenkou/kenko/kansen/1016922/1047525.html>





**★その他の感染症★**

**■**

**★違反食品・回収等★**

**■食品衛生法違反者を公表します　2024/7/3　目黒区**

<https://www.city.meguro.tokyo.jp/seikatsueisei/kenkoufukushi/eisei/shokuhineiseiihan_ihanshokuhin.html>

　公表年月日　令和6年7月3日

違反品の名称　その他の乾燥ハーブ（DRIED　KAFFIR　LIME　LEAVES）

輸入者の氏名、営業所所在地

mft株式会社

東京都目黒区

違反条項　食品衛生法第13条第3項　農薬等が基準を超えて残留する食品の販売等の禁止

違反理由　基準を超える量の残留農薬の検出

検出値　プロフェノホス0.02ppm

基準値　0.01ppm

措置状況　違反品は流通しておらず、全量倉庫に保管されています。

指示内容

令和6年7月3日、上記輸入業者に対し、違反品の販売等をせず返品又は廃棄措置を講じること、違反に至った原因について調査を行い、再発防止策とともに内容を報告するよう指示を行いました。

**■違反食品等に対する不利益処分等　2024/7/3　中央区**

<https://www.city.chuo.lg.jp/a0030/kenkouiryou/eisei/shokuhineisei/shokuchuudoku/kohyo.html>

　違反食品等に対し、中央区が行った不利益処分等についてお知らせします。

公表年月日　令和6年7月3日

違反食品

品名　バナナ：生鮮・冷蔵　美味爽やか

原産国　カンボジア

適用条項　食品衛生法第13条第3項

違反内容　農薬「ジノテフラン」を0.05ppm検出した。

当該品は、ジノテフランが人の健康を損なうおそれのない量として内閣総理大臣が定める量（0.01ppm）を超えて残留するため、全量が食品衛生法第13条第3項に違反する。

違反食品輸入者

株式会社マール

輸入者所在地

東京都中央区築地二丁目11番24号

不利益処分等の内容　令和6年7月3日回収指示　1,098CT（19,764.00kg）

備考　輸入届出年月日：令和6年6月10日

**■不適切表示のサニーマートに再発防止策を指示 中四国農政局**

**06月28日　18時10分　高知 NEWS WEB**

<https://www3.nhk.or.jp/lnews/kochi/20240628/8010020860.html>

**★その他関連ニュース★**

**■【感染症ニュース】手足口病全国定点6.31　前週比約33％で13週連続の増加　医師「例年7月にピーク」　7/4(木) 7:00配信　感染症・予防接種ナビ**

<https://news.yahoo.co.jp/articles/0d39886a6ac7f93df700d77a3384c3fb71a48010>

**■手足口病の増加続く、6月17－23日で2万人に - 33都府県で「警報レベル」上回る**

**7/3(水) 19:26配信　医療介護ＣＢニュース**

<https://news.yahoo.co.jp/articles/e27d1b52a72dcbf4a03b80bc1ba54b9d7d981c5d>

**■劇症型溶連菌、感染経路最多は「傷口から」 - 病原体はGASが6割超、感染研**

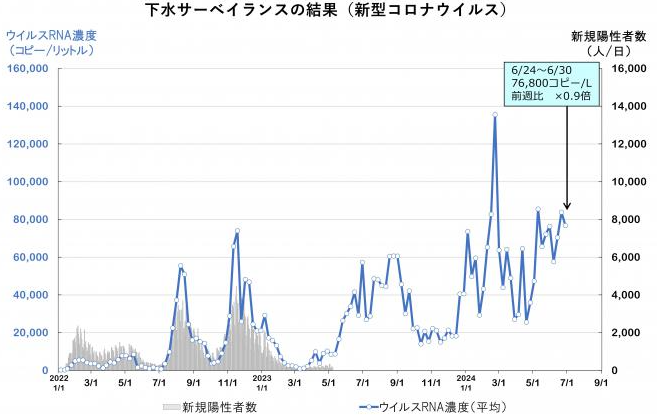
**7/2(火) 17:35配信****医療介護ＣＢニュース**

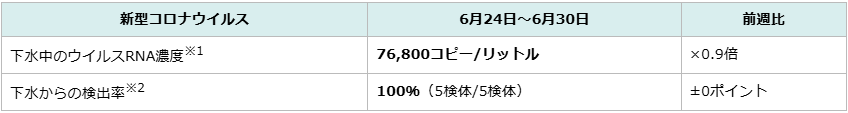
<https://news.yahoo.co.jp/articles/407ff0c473d87b03363c1d9a413a2de09d28d27e>

**■下水サーベイランス　2024/7/2　北海道札幌市**

<https://www.city.sapporo.jp/gesui/surveillance.html>

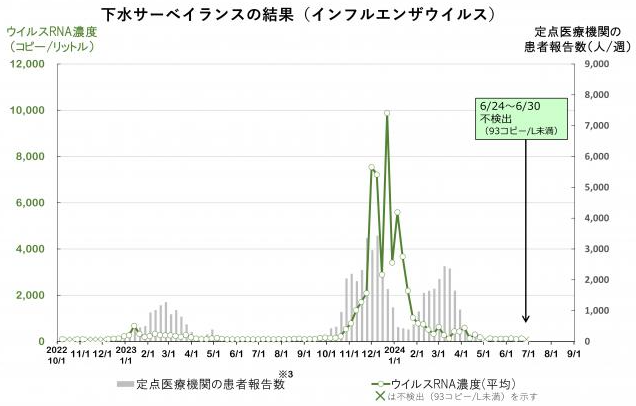
　新型コロナウイルス





　　ウイルス濃度は前週から減少しましたが高い水準を継続しており、引き続き注意が必要です。

　インフルエンザウイルス





　　インフルエンザウイルス（A型）は不検出でした。

※本調査では、インフルエンザウイルス（A型）を分析対象としています。

**■コロナワクチンは胎児の先天異常とは無関係　米当局は妊婦への接種を推奨**

**7/2(火) 11:30配信　Forbes JAPAN**

<https://news.yahoo.co.jp/articles/d5730c33e9860511485c666522bf115fd61e0e48>

**■夏到来の米国でコロナ感染再拡大　新変異株「FLiRT」が症例の7割**

**7/2(火) 9:00配信****Forbes JAPAN**

<https://news.yahoo.co.jp/articles/3337e4f9681e09143f186e8c73fa33c018b88971>

**■手足口病、東京で「警報レベル」の基準上回る - 多摩地域中心に感染拡大**

**6/28(金) 17:09配信　医療介護ＣＢニュース**

<https://news.yahoo.co.jp/articles/25211b301804b800433b8ca00f77b7662a97598f>

**■新型コロナウイルス感染者数　7週連続で増加…1医療機関あたり4．61人**

**6/28(金) 15:34配信　読売新聞（ヨミドクター）**

<https://news.yahoo.co.jp/articles/05c96f282a3c019f28b87d877210a9bd7e71ea1d>

**■訂正：フィンランド、ヒトへの鳥インフルワクチン接種開始へ　世界初**

**By ロイター編集　2024年6月27日　佐藤先生からいただいた情報です**

<https://jp.reuters.com/world/europe/7R6KG3RH7VIS7ONTS5MZRD44FM-2024-06-26/>

**■「普通のインフルより1000倍危険」　鳥インフル大流行ならゴーグルも必須に？**

**6/26(水) 9:30配信　Forbes JAPAN　佐藤先生からいただいた情報です**

<https://news.yahoo.co.jp/articles/ffdc7cf055ed7bf1726398088f56deb269dc2ab3>